

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2022-64355
(P2022-64355A)

(43)公開日 令和4年4月26日(2022.4.26)

(51)国際特許分類	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 B 13/00 (2006.01)	A 4 7 B 13/00	Z 3 B 0 5 3
A 4 7 B 17/00 (2006.01)	A 4 7 B 17/00	Z
A 4 7 B 96/04 (2006.01)	A 4 7 B 96/04	Z

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全31頁)

(21)出願番号	特願2020-172931(P2020-172931)	(71)出願人	000001351 コクヨ株式会社 大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号
(22)出願日	令和2年10月14日(2020.10.14)	(74)代理人	100085338 弁理士 赤澤 一博
		(72)発明者	西口 眞由 大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号 コクヨ株式会社内
		(72)発明者	小倉 広漢 大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号 コクヨ株式会社内
		F ターム (参考)	3B053 NQ02 NQ09 SE10

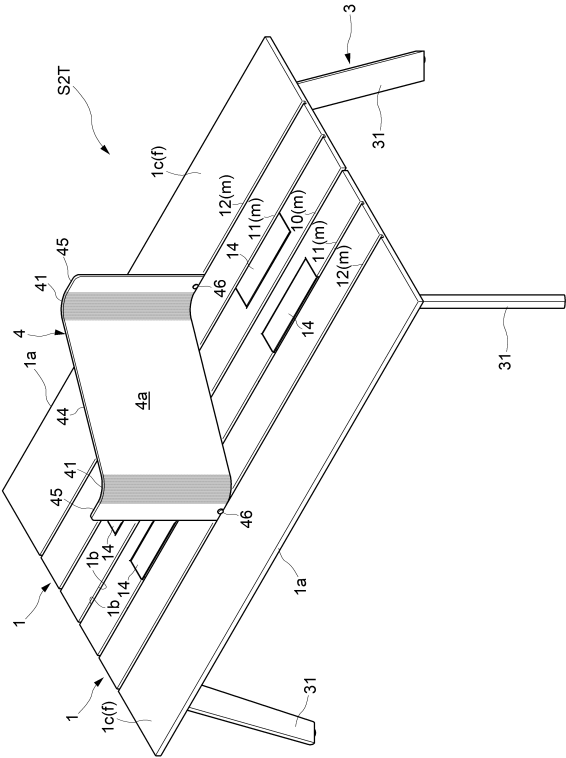
(54)【発明の名称】 パネル

(57)【要約】 (修正有)

【課題】家具の天板上で使用されるパネルにおいて、格別なヒンジ要素等を設ける等することなく、換言すれば構造の複雑化や部品点数の増加を招くことなく、全体を変形可能にすることにより多様な姿勢パネルを提供する。

【解決手段】テーブルS 2 Tの天板1上で使用されるパネルであるフェルトパネル4において、単一素材（フェルト素材）で作られ、他の領域よりも変形し易い変形容易領域4 1を部分的に備える構成とする。

【選択図】図 3 6



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

天板上で使用されるパネルであって、

単一素材で作られ、他の領域よりも変形し易い変形容易領域を部分的に備えているパネル。

【請求項 2】

前記変形容易領域を含め全体が一定の厚み寸法を有するものであって、

前記変形容易領域には、複数本の切込線が同じ方向を向けて互いに干渉しないように設けられている請求項 1 記載のパネル。

【請求項 3】

前記切込線が、一方のパネル面から他方のパネル面に貫通するように形成されたものである請求項 1 又は 2 記載のパネル。

【請求項 4】

一定厚さを有するフェルト素材により作られている請求項 1、2 又は 3 記載のパネル。

【請求項 5】

左右方向に隣接する複数の区域を有したパネルであって、

前記変形容易領域が、略鉛直な切込線を有した上下に延びる帯状の領域であり、

前記変形容易領域を、前記区域の隣接境界部分に配している請求項 2、3 又は 4 記載のパネル。

【請求項 6】

下縁部に、素材を分断する分断線を左右方向に間隔をあけて複数本設けてこれら分断線間に下縁が開放された暖簾部を形成したパネルであって、

前記変形容易領域が、前記暖簾部の全体又は上部に略水平な切込線を有した変形容易領域を配している請求項 2、3 又は 4 記載のパネル。

【請求項 7】

溝を有する天板面上で使用されるものであって、

一部を前記溝に係合させて天板面上に起立させるように構成されている請求項 1、2、3、4、5 又は 6 記載のパネル。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、家具の天板上で使用されるパネルに関する。

【背景技術】**【0002】**

従来から、デスクやテーブル等の天板上には、デスクトップパネルやサイドパネルが配置されることが少なくない（例えば、特許文献 1 を参照）。

【0003】

ところが、従来のパネルは、一定の形状をなすものが主流であり、多様な使い方ができない。

【0004】

なお、中間部分に蝶番や蛇腹等のヒンジ要素を設けて全体を変形させることができるパネルも開発されているが、従来のものはパネル本体とヒンジ要素とは別々の部品から構成されており、構造が複雑になるという課題がある。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0005】**

【特許文献 1】特開 2018 - 186861 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0006】**

10

20

30

40

50

本発明は、前述した課題を無理なく解消することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0007】

請求項1記載の発明に係るパネルは、天板上で使用されるパネルであって、単一素材で作られ、他の領域よりも変形し易い変形容易領域を部分的に備えているものである。

【0008】

請求項2記載の発明に係るパネルは、請求項1記載のものであって、前記変形容易領域を含め全体が一定の厚み寸法を有し、前記変形容易領域には、複数本の切込線が同じ方向を向けて互いに干渉しないように設けられているものである。

【0009】

請求項3記載の発明に係るパネルは、請求項1又は2記載のものであって、前記切込線が、一方のパネル面から他方のパネル面に貫通するように形成されたものである。

【0010】

請求項4記載の発明に係るパネルは、請求項1、2又は3記載のものであって、一定厚さを有するフェルト素材により作られているものである。

【0011】

請求項5記載の発明に係るパネルは、請求項2、3又は4記載のものであって、左右方向に隣接する複数の区域を有し、前記変形容易領域が、略鉛直な切込線を有した上下に延びる帯状の領域であり、前記変形容易領域を、前記区域の隣接境界部分に配しているものである。

【0012】

請求項6記載の発明に係るパネルは、請求項2、3又は4記載のものであって、下縁部に、素材を分断する分断線を左右方向に間隔をあけて複数本設けてこれら分断線間に下縁が開放された暖簾部を形成し、前記変形容易領域が、前記暖簾部の全体又は上部に略水平な切込線を有した変形容易領域を配しているものである。

【0013】

請求項7記載の発明に係るパネルは、請求項1、2、3、4、5又は6記載のものであって、溝を有する天板面上で使用され、一部を前記溝に係合させて天板面上に起立させるように構成されているものである。

【0014】

この明細書でいう「溝」とは、底を有する狭義の溝に限らず、一方向に連続的に伸びる貫通した孔をも含むものである。しかして、「有底溝」とは、文字通り底を有する狭義の溝を意味し、「貫通溝」とは、一方向に伸びる底を有しない上下に貫通した孔を意味している。

【発明の効果】

【0015】

本発明によれば、単一素材により構成されているにも拘わらず変形容易領域を変形させて全体の形状を変えることができ、前述した課題を無理なく解消することができるパネルを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本発明の一実施形態に係るテーブルの一つを示す全体斜視図。

【図2】同テーブルを示す平面図。

【図3】同テーブルを示す正面図。

【図4】同テーブルを示す底面図。

【図5】図2における要部を拡大して示す図。

【図6】図2におけるA - A線、B - B線、C - C線に沿った天板の断面図。

【図7】同テーブルの開口部に対する蓋体の装着状態を示す斜視図。

【図8】同テーブルの蓋体を開成姿勢とした天板を示す要部拡大斜視図。

【図9】図2におけるD - D線に沿った拡大断面図。

10

20

30

40

50

- 【図 1 0】同テーブルの蓋体を開成姿勢とした状態を示す要部拡大断面図。
- 【図 1 1】同テーブルの蓋体の開閉の態様を示す説明図。
- 【図 1 2】同テーブルの蓋体を閉止姿勢とした状態を示す要部拡大断面図。
- 【図 1 3】同テーブルへのクランプの取付態様を示す説明図。
- 【図 1 4】同テーブルへのクランプの取付態様を示す説明図。
- 【図 1 5】同テーブルの蓋体の使用態様を示す説明図。
- 【図 1 6】同テーブルの溝の使用態様を示す説明図。
- 【図 1 7】同テーブルを示す分解斜視図。
- 【図 1 8】同テーブルを示す分解斜視図。
- 【図 1 9】同テーブルの脚の天板への取付態様を示す説明図。 10
- 【図 2 0】同テーブルの天板支持体の要部を示す分解斜視図。
- 【図 2 1】同テーブルのブラケットの脚への取付態様を示す分解斜視図。
- 【図 2 2】同テーブルのブラケットを脚に取り付けた状態を示す平面図。
- 【図 2 3】同テーブルのブラケットを脚に取り付けた状態を示す正面図。
- 【図 2 4】同テーブルのブラケットを脚に取り付けた状態を示す中央縦断面図。
- 【図 2 5】同実施形態に係るテーブルの他の一つを示す全体斜視図。
- 【図 2 6】同テーブルを示す平面図。
- 【図 2 7】同テーブルを示す底面図。
- 【図 2 8】図 2 6 における E - E 線、F - F 線に沿った天板の断面図。
- 【図 2 9】同テーブルの溝形成部材及びエンドキャップの取付態様を示す分解斜視図。 20
- 【図 3 0】同テーブルの有底溝の端部近傍を示す平面図。
- 【図 3 1】図 3 0 における有底溝の巾方向中央で切断した断面図。
- 【図 3 2】同テーブルの溝形成部材及びエンドキャップを示す斜視図。
- 【図 3 3】図 1 ~ 図 2 4 に示すテーブルの天板を抜き出して示す平面図。
- 【図 3 4】図 2 5 ~ 図 3 2 に示すテーブルの天板を抜き出して示す平面図。
- 【図 3 5】同実施形態に係るテーブルへのフェルトパネルの装着状態を示す斜視図。
- 【図 3 6】同テーブルにフェルトパネルを変形させて装着した状態を示す斜視図。
- 【図 3 7】同実施形態に係るフェルトパネルを示す正面図。
- 【図 3 8】同実施形態に係るフェルトパネルを拡大して示す側面図。
- 【図 3 9】図 3 7 における要部を拡大して示す図。 30
- 【図 4 0】同実施形態に係るフェルトパネルの変形容易領域近傍を拡大した斜視図。
- 【図 4 1】同実施形態に係るテーブルへのフェルトパネルの装着状態を示す斜視図。
- 【図 4 2】図 4 1 のフェルトパネルを変形させた状態を示す斜視図。
- 【図 4 3】同実施形態に係るフェルトパネルを示す正面図。
- 【図 4 4】同実施形態に係るフェルトパネルの下部を拡大して示す側面図。
- 【図 4 5】同実施形態に係るテーブルへのアクリルパネルの装着状態を示す斜視図。
- 【図 4 6】同実施形態に係るアクリルパネルを示す正面図。
- 【図 4 7】同実施形態に係るアクリルパネルの下部を拡大して示す側面図。
- 【図 4 8】同実施形態に係るアクリルパネルを示す分解斜視図。
- 【図 4 9】同実施形態に係るテーブルへの書見台の装着状態を示す斜視図。 40
- 【図 5 0】同実施形態に係る書見台を示す正面図。
- 【図 5 1】同実施形態に係る書見台を示す側面図。
- 【図 5 2】同実施形態に係る書見台を示す底面図。
- 【図 5 3】同実施形態に係るテーブルへの植栽ボックスの装着状態を示す斜視図。
- 【図 5 4】同実施形態に係る植栽ボックスを示す正面図。
- 【図 5 5】同実施形態に係る植栽ボックスを示す側面図。
- 【図 5 6】同実施形態に係るテーブルへのシェルフの装着状態を示す斜視図。
- 【図 5 7】同実施形態に係るシェルフを示す正面図。
- 【図 5 8】同実施形態に係るシェルフを示す側面図。
- 【発明を実施するための形態】 50

【 0 0 1 7 】

以下、本発明の実施形態を図面を参照して説明する。

【 0 0 1 8 】

この実施形態は、集成材製の天板を２枚用いたテーブル（以下、「集成材天板２枚タイプのテーブル」と称することがある）と、メラミン化粧板を備えた天板を２枚用いたテーブル（以下、「メラミン天板２枚タイプのテーブル」と称することがある）とに関連して使用される６種類のオプション部材について説明したものであり、本発明は、それらオプション部材の内の（１）フェルトパネルＺ型と、（２）フェルトパネル暖簾型にそれぞれ適用されている。

【 0 0 1 9 】

10

< 集成材天板２枚タイプのテーブル >（図１～図２４）

集成材天板２枚タイプのテーブルＳ２Ｔは、図１～図６、図１７及び図１８に示すように、奥行寸法が略同じ対をなす天板１を反使用端１ｂ同士を対面させて配置したものであって、両天板１の反使用端１ｂ間に上下に貫通する貫通溝１０（溝ｍ）が形成されているとともに、各天板１の上面１ｃに貫通溝１０と平行な有底溝１１、１２（溝ｍ）が形成されている。貫通溝１０は、天板１の上面１ｃ（天板面ｆ）側と下面１ｄ側とを連通させるもので、配線類の挿通や細い支柱の貫通等を許容し得る形態をなしている。

【 0 0 2 0 】

天板１は、一定の奥行寸法を有した平面視四角形状のもので、集成材製の厚板により構成されている。これら天板１の反使用端１ｂ間に形成される貫通溝１０は、図１、図２、図４～図６、図１７及び図１８に示すように、天板１の左右方向一端から他端まで連続して形成されたもので、全体が一定の標準溝幅ｎを有している。

20

【 0 0 2 1 】

有底溝１１、１２は、貫通溝１０の標準溝幅ｎと略同じ幅寸法を有するものである。この実施形態の場合、図１、図２、図４～図６、図１７及び図１８に示すように、各天板１に貫通溝１０寄りの第１の有底溝１１と、天板１の使用端１ａ寄りの第２の有底溝１２がそれぞれ設けられている。この実施形態の場合、奥行方向中央に位置する貫通溝１０と、各天板１にそれぞれ設けられた第１、第２の有底溝１１、１２とは、一定のピッチで平行に配されている。これら貫通溝１０及び有底溝１１、１２は、天板１の使用端１ａと平行をなしており、第１の有底溝１１の途中には、図５に示すように、部分貫通溝１３が設けられている。部分貫通溝１３は、有底溝１１と略同じ標準溝幅ｎを有する標準溝幅部１３ａと、この標準溝幅部１３ａよりも幅の広い拡大溝幅部１３ｂとを有するもので、その部分貫通溝１３の標準溝幅部１３ａが有底溝１１に連続させてある。詳述すれば、部分貫通溝１３は、図５に示すように、嵩高いコンセントやコネクタ等を通過させることができる開口部ｐを形成するための拡大溝幅部１３ｂを有し、その拡大溝幅部１３ｂの左右両端に、有底溝１１に連続する標準溝幅部１３ａを連続させて設けたものである。部分貫通溝１３は、例えば、図１３及び図１４に示すように、コンセントＣ等のオプション類を天板１上に取り付けるためのクランプｋを挿通させる役割を担い得るものであり、拡大溝幅部１３ｂから挿入させたクランプｋを横移動させて標準溝幅部１３ａに係合させることによって、オプション類を天板１上に固定することができるようになっている。なお、この実施形態では、部分貫通溝１３の標準溝幅部１３ａは、上半部分が標準溝幅ｎを有するとともに、下半部分が標準溝幅ｎよりも狭い縮小溝幅ｎ０を有している。この縮小溝幅ｎ０は、クランプｋの部材厚み寸法に対応させたものである。

30

40

【 0 0 2 2 】

また、部分貫通溝１３の拡大溝幅部１３ｂは、図５、図６および図８～図１３に示すように、天板１の上面１ｃ側と下面１ｄ側とを連通させる開口部ｐを形成するものであり、この拡大溝幅部１３ｂに蓋体１４が開閉可能に配されている。蓋体１４は、閉止位置（ＣＬ）で当該拡大溝幅部１３ｂの実質的な開口幅を標準溝幅ｎに対応する溝幅にまで縮小させるとともに、開成位置（ＯＰ）で当該拡大溝幅部１３ｂを開放し得るよう構成されたものである。

50

【 0 0 2 3 】

詳述すれば、このテーブル S 2 T は、天板 1 に上下に貫通する開口部 p (部分貫通溝 1 3 の拡大溝幅部 1 3 a) を設け、この開口部 p に蓋体 1 4 を開閉可能に設けたものである。なお、蓋体 1 4 は、図 1 0 及び図 1 5 に示すように、閉止姿勢 (C L) で上面 1 4 a が天板面 f に面一となる平面視長形状のもので、開成姿勢 (O P) で天板 1 の上面 1 c (天板面 f) よりも高い位置で上を向く物品支持面 1 4 b を備えている。すなわち、蓋体 1 4 は、開閉時の回動端部となる部位の底面側に物品支持面 1 4 b を備えており、開成姿勢 (O P) においてその物品支持面 1 4 b が上を向くように構成されている。この物品支持面 1 4 b は、例えば、図 1 5 に示すように、パーソナルコンピュータ P C 等の機器類を使用者側に前傾させて天板面 f 上に載置する場合等に好適に使われる。

10

【 0 0 2 4 】

蓋体 1 4 の開口部 p に対する取付構造は、次の通りである。まず、この取付構造を上位概念で表現すれば、開口部の内側面及びこの内側面に対向する蓋体の外側面のいずれか一方に、第 1 の支軸と第 2 の支軸を天板奥行方向に間隔をあけて突設するとともに、他方に、前記閉止姿勢で前記第 1 の支軸に係合する第 1 の係合溝と、前記第 2 の支軸に係合する第 2 の係合溝とをそれぞれ設けており、蓋体を第 2 の支軸から第 2 の係合溝を離脱させて第 1 の支軸周りに回動させる一方向回動態様と、前記蓋体を前記第 1 の支軸から前記第 1 の係合溝を離脱させて第 2 の支軸周りに回動させる他方向回動態様とを選択的に採り得るように構成されている。

20

【 0 0 2 5 】

符号を付して具体的に説明すれば、この実施形態における蓋体 1 4 の取付構造は、図 7 ~ 図 1 2 に示すように、開口部 p の内側面 p a に、第 1 の支軸 1 7 と第 2 の支軸 1 8 を天板奥行方向に間隔をあけて突設するとともに、蓋体 1 4 の外側面 1 4 c に、閉止姿勢 (C L) で第 1 の支軸 1 7 に係合する第 1 の係合溝 1 5 と、第 2 の支軸 1 8 に係合する第 2 の係合溝 1 6 とをそれぞれ設けたものであって、蓋体 1 4 を第 2 の支軸 1 8 から第 2 の係合溝 1 6 を離脱させて第 1 の支軸 1 7 周りに回動させる一方向回動態様を採った場合に物品支持面 1 4 b が上を向くように構成されている。

【 0 0 2 6 】

第 1 、第 2 の係合溝 1 5 、 1 6 は、それぞれ蓋体 1 4 の外側面 1 4 c 及び底面 1 4 d に開放された凹陷形状をなすものであり、図 1 0 に示すように、第 1 の係合溝 1 5 の奥端に、一方向回動態様により蓋体 1 4 を開成させた場合に第 1 の支軸 1 7 が係合して当該蓋体 1 4 の落下を防止する屈曲溝部 1 5 a を設けている。

30

【 0 0 2 7 】

第 2 の係合溝 1 6 は、図 1 1 に示すように、蓋体 1 4 を閉止姿勢に戻す途上で第 2 の支軸 1 8 に摺接する案内カム部 1 6 a を有したものであり、案内カム部 1 6 a は、蓋体 1 4 を閉止姿勢 (C L) に戻す力を利用して当該蓋体 1 4 を第 1 の支軸 1 7 が屈曲溝部 1 5 a から外れる方向に引き込むように形状設定されたものである。図 9 は蓋体 1 4 を取り外した状態を示しており、図 1 2 は蓋体 1 4 を閉止姿勢 (C L) に保持させた状態を示している。

【 0 0 2 8 】

なお、蓋体 1 4 は、回動端部 1 4 e を天板 1 の使用端 1 a 及び反使用端 1 b と平行に配したものであり、前述した一方向回動態様で開成させた場合に回動端部 1 4 e が天板 1 の使用端 1 a に近づく方向に平行移動するように構成されている。一方、蓋体 1 4 を閉止姿勢 (C L) に戻した状態では、図 1 2 に示すように、当該蓋体 1 4 の上面 1 4 a が天板面 f と面一となり、部分貫通溝 1 3 の拡大溝幅部 1 3 b も標準溝幅 n の開口を残して閉止されるようになっている。

40

【 0 0 2 9 】

以上説明したように、このテーブル S 2 T の 2 枚の天板 1 により形成される天板面 f には、図 1 、図 2 、図 5 及び図 6 に示すように、2 枚の天板 1 間に形成された 1 本の貫通溝 1 0 と、各天板 1 に 2 本ずつ形成された有底溝 1 1 、 1 2 とが、同じ標準溝幅 n をなして平

50

行に配されることになる。そして、この実施形態では、有底溝 11、12 の左右両端が、天板 1 の左右両端まで達して開放されているため、有底溝 11、12 と貫通溝 10 とが対等な存在感をなして整然と配列されることになる。すなわち、天板面 f 上には、5 本の平行な溝 m が等ピッチで配列された外観を呈することになる。なお、図 16 に示すように、有底溝 11、12 にはスマートフォン S P やタブレット端末等を立てかけて使用することができる。

【0030】

対をなす 2 枚の天板 1 は、図 1、図 3、図 4、図 17 及び図 18 に示すように、天板支持体 3 に着脱可能に取付けられ支持されている。天板支持体 3 は、複数本の脚 31 と、これら脚 31 の上端部をそれぞれ天板 1 の下面 1d に取り付ける複数のブラケット 32 と、これらブラケット 32 同士を連結し天板 1 の下面 1d に添接する天板支持フレーム 38、39 とを具備してなる。

10

【0031】

すなわち、このテーブル S2T は、図 18 及び図 19 に示すように、天板 1 の下面 1d に設けられたブラケット取付部 q に脚 31 の上端部をブラケット 32 を介して取り付けたものであって、脚 31 は、その上端部をブラケット 32 に止着するための止着要素 34、35 を備えている。

【0032】

ブラケット 32 は、図 17 ~ 図 24 に示すように、天板 1 の下面 1d に添接する上向添接面 33a 及び脚 31 の上端面 31z が当接する下向取付面 33b を備えたブラケット本体 33 と、このブラケット本体 33 に設けられ脚 31 が止着された状態で止着要素 34、35 を隠蔽する隠蔽部 36 とを備えたものである。この実施形態のブラケット 32 は、例えば、アルミダイキャスト製のものであり、ブラケット本体 33 と隠蔽部 36 とは一体に成型されている。

20

【0033】

ブラケット 32 は、図 19 ~ 図 22 に示すように、隠蔽部 36 により隠されない部位に、ブラケット本体 33 を天板 1 にねじ止めするための天板取付用のボルト挿通孔 33c を備えており、脚 31 をブラケット 32 に止着したままで、天板 1 をブラケット 32 に着脱可能に接続することができるように構成されている。具体的には、ブラケット 32 の外縁部 4カ所にボルト挿通孔 33c が設けてあり、図 19 に示すように、これらボルト挿通孔 33c に下側から挿通させた取付ボルト B0 を天板 1 のブラケット取付部 q に埋設した埋設ナット N にそれぞれ螺着することによって、当該ブラケット 32 を天板 1 の下面 1d に取着することができるようになっている。

30

【0034】

脚 31 は、図 21 に示すように、上端面 31z に開口するボルト挿通孔 31a、31b と、側面 31x に開口しボルト挿通孔 31a、31b に直交する止着要素装着孔 31c、31d と、止着要素装着孔 31c、31d に装着されボルト挿通孔 31a、31b に対応する部位に雌ねじ孔 34a、35a を有する止着要素（ピン状ナット）34、35 とを備えている。そして、ブラケット 32 を上から下に貫通させたボルト B1、B2 をそのボルト挿通孔 31e に挿入して前述の止着要素 34 の雌ねじ孔 34a、34b に螺着することによって、当該脚 31 をブラケット 32 に止着している。

40

【0035】

また、脚 31 は、例えば木製のもので、図 21 に示すように、少なくとも上端部が、下肢空間に臨む内向端面 31y と、この内向端面 31y に連続する両側面 31x とを有する柱状をなしており、前述したブラケット 32 の隠蔽部 36 は、内向端面 31y と両側面 31x とを部分的に覆う壁状をなしている。すなわち、脚 31 は、上端面 31z に連続する内向端面 31y 及び両側面 31x の上端部分に段状凹陷部分 31ya、31xa を形成したものであり、前述した隠蔽部 36 を内向端面 31y 及び両側面 31x の段状凹陷部分 31ya、31xa に外嵌させている。止着要素装着孔 31c、31d は、脚 31 の両側面 31x における段状凹陷部分 31xa に開口させてあり、止着要素装着孔 31c、31d に

50

装着された止着要素 3 4、3 5 は、脚 3 1 をブラケット 3 2 に取り付け付けた段階で隠蔽部 3 6 により完全に隠されることになる。

【0036】

脚 3 1 とブラケット 3 2 の止着構造をより具体的に説明すれば、図 2 1 に示すように、脚 3 1 の上端面 3 1 z には、1 本の第 1 ボルト挿通孔 3 1 a と、2 本の第 2 ボルト挿通孔 3 1 b と、2 個の埋設ナット 3 1 e の雌ねじ孔 3 1 e a とが開口させてあるとともに、脚 3 1 の側面 3 1 x には、第 1 ボルト挿通孔 3 1 a に直交する第 1 止着要素装着孔 3 1 c と、第 2 ボルト挿通孔 3 1 b にそれぞれ直交する第 2 止着要素装着孔 3 1 d とが開口させてある。また、第 1 止着要素装着孔 3 1 c には、第 1 ボルト挿通孔 3 1 a に対応した位置に雌ねじ孔 3 4 a を有するピン状の第 1 止着要素 3 4 が装着してあるとともに、第 2 止着要素 10 装着孔 3 1 d には、第 2 ボルト挿通孔 3 1 b に対応する位置に雌ねじ孔 3 5 b を有するピン状の第 2 止着要素 3 5 が装着してある。そして、ブラケット 3 2 の上面側から当該ブラケット 3 2 を貫通させて脚 3 1 の第 1 ボルト挿通孔 3 1 a に挿入した第 1 止着ボルト B 1 を第 1 止着要素 3 4 の雌ねじ孔 3 4 a に螺着するとともに、第 2 ボルト挿通孔 3 1 b に挿入した 2 本の第 2 止着ボルト B 2 を第 2 止着要素 3 5 の 2 つの雌ねじ孔 3 5 a にそれぞれ螺着し、さらに、ブラケット 3 2 の上面側から当該ブラケット 3 2 を貫通させた第 3 の止着ボルト B 3 を脚 3 1 の埋設ナット 3 1 e の雌ねじ孔 3 1 e a にそれぞれ螺着することによって、脚 3 1 をブラケット 3 2 に強固に止着している。この止着状態でブラケット 3 2 が天板 1 の下面 1 d に取着されるようになっている。止着状態では、第 1 止着要素装着孔 3 1 c に装着されている第 1 止着要素 3 4、及び第 2 止着要素装着孔 3 1 d に装着されて 20 いる第 2 止着要素 3 5 は全てブラケット 3 2 の隠蔽部 3 6 に覆われており、外部から視認することはできなくなる。また、ブラケット 3 2 の上面 3 2 a は天板 1 の下面に添接するため、前述した各止着ボルト B 1、B 2、B 3 の頭部も外部から視認不能になる。

【0037】

なお、各ブラケット 3 2 には、図 1 9 ~ 図 2 4 に示すように、天板 1 の奥行方向に延びる縦の天板支持フレーム 3 8、及び天板 1 の横幅方向に延びる横の天板支持フレーム 3 9 を取着するための一对のフレーム取付部 3 7 がそれぞれ設けられている。縦、横の天板支持フレーム 3 8、3 9 は、図 1 9 及び図 2 0 に示すように、角柱パイプ材製のもので、端部近傍部における両側壁間に角柱のボルト受座 Z を架設している。ボルト受座 Z は、軸心 j を斜め下方に向けたボルト挿通孔 Z a を有するもので、天板支持フレーム 3 8、3 9 の底 30 壁 3 8 a、3 9 a における軸心 j が通過する部位にボルト挿入用の窓 3 8 b、3 9 b が設けられている。ブラケット 3 2 のフレーム取付部 3 7 は、天板支持フレーム 3 8、3 9 の端面 3 8 c、3 9 c が当接する先端壁 3 7 a を有した角柱ブロック状のもので、その先端壁 3 7 a にボルト受座 Z のボルト挿通孔 Z a を通して挿入された斜めボルト B z を挿通させるボルト挿通孔 3 7 b が開設されているとともに、内部にその斜めボルト B z が螺着される図示しないナットが保持されている。先端壁 3 7 a には天板支持フレーム 3 8、3 9 の底壁 3 8 a、3 9 a の内面に当接する受圧突起 3 7 c が一体に設けられている。この受圧突起 3 7 c は、天板支持フレーム 3 8、3 9 をブラケット 3 2 に斜めボルト B z により強連結するためのものである。すなわち、軸心 j を傾斜させた斜めボルト B z をボルト受座 Z を通してナットに螺合させ緊締すると、天板支持フレーム 3 8、3 9 が上昇しつつ先 40 端壁 3 7 a に接近する方向に付勢され、その底壁 3 8 a、3 9 a が受圧突起 3 7 c の下面に押し付けられるとともに、その押付力を強めつつ端面 3 8 c、3 9 c が先端壁 3 7 a に圧接されることになるため、天板支持フレーム 3 8、3 9 を位置決めしつつブラケット 3 2 に強固に連結することができる。各ブラケット 3 2 には、向きを 90° 異ならせて一对のフレーム取付部 3 7 が設けられているため、各ブラケット 3 2 に縦の天板支持フレーム 3 8 と横の天板支持フレーム 3 9 とをそれぞれ連結することができる。各天板支持フレーム 3 8、3 9 は、中間固定箇所 s を天板 1 にねじ止めすることにより、天板 1 の固定をより確実なものにしている。

【0038】

ここで、図 1 は上述した集成材天板 2 枚タイプのテーブル S 2 T を示す全体斜視図であり

10

20

30

40

50

、図 2 は同平面図、図 3 は同正面図、図 4 は同底面図である。図 5 は、天板 1 の要部を拡大して示す平面図である。図 6 の (a)、(b) 及び (c) は、それぞれ天板 1 の図 2 における A - A 線、B - B 線、C - C 線に沿った断面図である。図 7 は、開口部 p に対する蓋体 1 4 の装着状態を示す斜視図である。図 8 は、蓋体 1 4 を開成姿勢 (O P) とした状態の天板 1 の要部を拡大して示す斜視図である。図 9 は、天板 1 の図 2 における D - D 線に沿った断面を示す図であり、蓋体 1 4 を浮かせた状態で示している。図 1 0 は、蓋体 1 4 を開成姿勢 (O P) とした状態を示す図である。図 1 1 は、蓋体 1 4 を開成姿勢 (O P) から閉止姿勢 (C L) に戻す途中の状態を示す図である。図 1 2 は、蓋体 1 4 を閉止姿勢 (C L) とした状態を示す図である。図 1 3 は、蓋体 1 4 を他方向回動態様で開放し開口部 p 内部にクランプ k を挿入する態様を示す図である。なお、図 1 0 ~ 図 1 3 では、天板 1 を図 9 と同様の位置で切断して示している。図 1 4 は、クランプ k を部分貫通溝 1 3 の標準溝幅部 1 3 a 内に配した状態を示す要部断面図である。図 1 5 は、蓋体 1 4 を開成姿勢 (O P) とし物品支持面 1 4 b にパーソナルコンピュータ P C を支持させた状態を示す図である。図 1 6 は、溝 m 内にスマートホン S P を立てかけた状態を示す図である。図 1 7 は、天板 1 と天板支持体 3 とを分離し上方から見た分解斜視図であり、図 1 8 は同下方から見た分解斜視図である。図 1 9 は天板 1 の下面 1 d への脚 3 1 及びブラケット 3 2 の取付け態様を示す図である。図 2 0 は脚 3 1 へのブラケット 3 2 及び天板支持フレーム 3 8、3 9 の取付け態様を示す下方から見た分解斜視図である。図 2 1 は脚 3 1 へのブラケット 3 2 の取付け態様を示す上方から見た分解斜視図である。図 2 2 は脚 3 1 にブラケット 3 2 を取り付けた状態を示す平面図である。図 2 3 は同正面図、図 2 4 は同中央縦断面図である。

10

20

【 0 0 3 9 】

なお、図 3 3 は、天板 1 のみを模式的に示す平面図であり、蓋体 1 4 を除去した状態で貫通した部分 (貫通溝 1 0、部分貫通溝 1 3) を黒塗りで示している。

【 0 0 4 0 】

< メラミン天板 2 枚タイプのテーブル > (図 2 5 ~ 図 3 2)

メラミン天板 2 枚タイプのテーブル M 2 T は、奥行寸法が略同じ対をなす天板 1 0 1 を反使用端 1 0 1 b 同士を対面させて配置したものであって、両天板 1 0 1 の反使用端 1 0 1 b 間に上下に貫通する貫通溝 1 1 0 が形成されているとともに、各天板 1 0 1 の上面 1 0 1 c に貫通溝 1 1 0 と平行な有底溝 1 1 1、1 1 2 が形成されている。この点では前述した集成材天板 2 枚タイプのテーブル S 2 T と共通しているが、天板 1 0 1 の具体的構成が異なっているため、天板 1 0 1 に関連した部分については、テーブル S 2 T と異なった符号を付している。天板 1 0 1 に関連した部分以外については、集成材天板 2 枚タイプのテーブル S 2 T と同一又は対応する部分に同一の符号を付して説明を省略する。

30

【 0 0 4 1 】

このテーブル M 2 T が、前述したテーブル S 2 T と異なっている点は、次の通りである。

【 0 0 4 2 】

このテーブル M 2 T は、天板 1 0 1 の材質や形態が集成材天板 2 枚タイプのテーブル S 2 T とは異なっている。すなわち、このテーブル M 2 T の天板 1 0 1 は、コア材の表面にメラミン化粧板を添設してなるものであり、各天板 1 0 1 に形成された有底溝 1 1 1、1 1 2 は、左右両端 1 1 1 a、1 1 2 a が、天板 1 0 1 の左右両端 1 0 1 e の近傍において閉塞されている。有底溝 1 1 1、1 1 2 の両端部 1 1 1 b、1 1 2 b は、その深さ寸法が漸次小さくなって最端位置 (両端 1 1 1 a、1 1 2 a) で略零となるように構成されている。具体的には、有底溝 1 1 1、1 1 2 は、各部において一定の深さ寸法を有する溝形成部材 G と、溝形成部材 G の両端に嵌着され有底溝 1 1 1、1 1 2 の端部 1 1 1 b、1 1 2 b を形成するエンドキャップ H とを天板 1 0 1 の上面 1 0 1 c に凹設された取付溝 1 0 1 f に埋設することにより形成されたものである。溝形成部材 G とエンドキャップ H とは、それぞれ合成樹脂により作られたもので、長手方向に若干の相対移動を許容された状態で嵌着されている。すなわち、溝形成部材 G は、各部同一の断面形状を有するチャンネル状のものであり、開口幅が前述した標準溝幅 n に設定されている。エンドキャップ H は、底壁

40

50

H a が外方端に向かって漸次上昇するように形成されたキャップ本体 H b と、このキャップ本体 H b の内方端に一体に形成され溝形成部材 G の端部外面に嵌合する嵌合部 H c とを備えている。なお、溝形成部材 G とエンドキャップ H とは、長手方向に若干の相対移動を許容された状態で嵌着されている。具体的には、溝形成部材 G と前記エンドキャップ H とは、当該溝形成部材 G の端面とキャップ本体 H b との間に若干の隙間 c を残した状態で天板面 f に刻設された取付溝 1 0 1 f に嵌着されており、寸法誤差や温度による部材の伸縮に対応し得るようになっている。

【 0 0 4 3 】

また、このテーブル M 2 T は、貫通溝 1 1 0 の全体ではなく一部が標準溝幅 n を有するものである。換言すれば、天板 1 0 1 の反使用端 1 0 1 b 間に形成される貫通溝 1 1 0 は、一定の標準溝幅 n を有する標準溝幅部 1 1 0 a と、この標準溝幅部 1 1 0 a よりも幅の広い拡大溝幅部 1 1 0 b とを有するものである。この実施形態の場合、拡大溝幅部 1 1 0 b により形成される開口部 p は、開放されたままであり、格別な蓋体は設けられていない。標準溝幅部 1 1 0 a は、標準溝幅 n に設定されている。

10

【 0 0 4 4 】

このテーブル M 2 T では、各天板 1 0 1 に 2 本ずつ有底溝 1 1 1、1 1 2 が形成されている。各有底溝 1 1 1、1 1 2 はそれぞれ全体が標準溝幅 n を有するものであり、貫通溝 1 1 0 の標準溝幅部 1 1 0 a と同じ幅寸法を有している。

【 0 0 4 5 】

ここで、図 2 5 は上述したメラミン天板 2 枚タイプのテーブル M 2 T を示す全体斜視図であり、図 2 6 は同平面図、図 2 7 は同底面図である。図 2 8 の (a) 及び (b) は、それぞれ天板 1 0 1 の図 2 6 における E - E 線及び F - F 線に沿った断面図である。図 2 9 は、天板 1 0 1 への溝形成部材 G 及びエンドキャップ H の取付態様を示す分解斜視図である。図 3 0 は、有底溝 1 1 1 の端部 1 1 1 b 近傍を示す平面図である。図 3 1 は、図 3 0 における有底溝 1 1 1 の巾方向中央で切断した断面図である。図 3 2 は、溝形成部材 G 及びエンドキャップ H を示す斜視図である。

20

【 0 0 4 6 】

なお、図 3 4 は、天板 1 0 1 のみを模式的に示す平面図であり、貫通した部分（貫通溝 1 1 0）を黒塗りで示している。

【 0 0 4 7 】

< テーブル上で使用されるオプション部材 > (図 3 5 ~ 図 5 8)

30

以上説明したテーブル S 2 T、M 2 T は、いずれも天板面 f に複数本の平行な溝 m（貫通溝 1 0、1 1 0 と有底溝 1 1、1 2、1 1 1、1 1 2）を備えており、それらの溝 m を利用して次の (1) ~ (6) で説明する種々のオプション部材を装備することができる。

【 0 0 4 8 】

(1) フェルトパネル Z 型 (図 3 5 ~ 図 4 0)

オプション部材であるフェルトパネル 4 は、前述したテーブル S 2 T、M 2 T の天板 1、1 0 1 上で使用されるパネルであって単一素材で作られ、他の領域よりも変形し易い変形容易領域 4 1 を部分的に備えている。このフェルトパネル 4 は、変形容易領域 4 1 を含め全体が一定の厚み寸法を有するものであって、変形容易領域 4 1 には、複数本の切込線 4 2 が同じ方向を向けて互いに干渉しないように設けられている。具体的には、このフェルトパネル 4 は、一定厚さを有するフェルト素材により作られており、変形させない初期姿勢 (図 3 5、図 3 7 及び図 3 8 参照) では、略長形状をなしている。そして、変形容易領域 4 1 に設けられている切込線 4 2 は、一方のパネル面 4 a から他方のパネル面 4 b に貫通するように形成された直線状のものである。変形容易領域 4 1 には、図 3 9 に示すように、複数の切込線 4 2 を長手方向 (鉛直方向) に間欠的に設けた切込線列 4 3 が複数本平行に形成されており、隣接する切込線列 4 3 の切込線 4 2 同士は横に並ばないように長手方向に位置を異ならせてある。

40

【 0 0 4 9 】

詳述すれば、このフェルトパネル 4 は、左右方向に隣接する複数の区域 4 4、4 5 を有し

50

たパネルであって、変形容易領域 4 1 が、略鉛直な切込線 4 2 を有した上下に延びる帯状の領域であり、変形容易領域 4 1 を、区域 4 4、4 5 の隣接境界部分に配している。具体的には、このフェルトパネル 4 は、上下に延びる平行な 2 本の変形容易領域 4 1 によって中間区域 4 4 と、中間区域 4 4 の両側に位置する端部区域 4 5 とに区画されており、変形容易領域 4 1 を変形させることによって平面視略 Z 形となる屈曲姿勢（図 3 6 参照）に全体形状を変えることができるようになっている。端部区域 4 5 の下端近傍部には、円柱状のフェルト素材を貫設することによって、係止凸部 4 6 が形成されており、端部区域 4 5 の下端部 4 5 a（係止凸部 4 6 の下向面 s 4 より下方に位置する突部 t 4）をテーブル S 2 T、M 2 T のいずれかの溝 m に嵌入させ、係止凸部 4 6 の下向面 s 4 を天板面 f に係止させることによって、当該フェルトパネル 4 を天板面 f 上に起立状態で設置することができる。

10

【0050】

なお、フェルトパネル 4 の厚み寸法 4 c は、テーブル S 2 T、M 2 T の溝 m の標準溝幅 n と同じか若干大きく設定してあるため、係止凸部 4 6 の下向面 s 4 よりも下方に突出する突部 t 4 を構成する端部区域 4 5 の下端部 4 5 a は、所望の溝 m（有底溝 1 1、1 2、1 1 1、1 1 2、貫通溝 1 0、1 1 0）に嵌合又は圧入することができ、補助器具を一切用いることなく天板面 f 上にがたつきなく設置することができる。この実施形態の突部 t 4 は、溝 m の幅寸法に対応する幅寸法 w 4 を有した板状のものである。

【0051】

図 3 5 は、初期姿勢のフェルトパネル 4 を貫通溝 1 0 を利用してテーブル S 2 T の中央に立設してデスクトップパネルとして使用する例を示している。この使用態様では、貫通溝 1 0 に沿って自由に設置位置を変更することが可能である。また、係止凸部 4 6 の下向面 s 4 よりも下方に突出する突部 t 4 の突出寸法を有底溝 1 1、1 2 の深さ寸法以内に設定しておけば、有底溝 1 1、1 2 を利用して当該フェルトパネル 4 を立設することもできる。

20

【0052】

図 3 6 は、屈曲姿勢のフェルトパネル 4 を 2 本の有底溝 1 2 を利用してテーブル S 2 T の天板面 f 上に立設して、サイドパネル的に使用する例を示している。この場合も、両有底溝 1 2 に対する嵌合位置を変更することによって、フェルトパネル 4 の設置位置を左右方向に変えることができる。また、端部領域 4 5 の突部 t 4 を嵌合させる溝 m を適宜選択することによって、中間領域 4 4 の向きを変更することもでき、多様な間仕切として便利に使用することができる。

30

【0053】

ここで、図 3 7 は、このフェルトパネル 4 を初期姿勢とした状態の正面図であり、図 3 8 は、同フェルトパネル 4 の拡大した側面図である。図 3 9 は、同フェルトパネル 4 の変形容易領域 4 1 の一部を示す拡大正面図である。そして、図 4 0 は、同フェルトパネル 4 の変形容易領域 4 1 を変形させた状態における当該変形容易領域 4 1 及びその近傍の拡大斜視図である。

【0054】

このフェルトパネル 4 は、テーブル M 2 T の貫通溝 1 1 0 や有底溝 1 1 1、1 1 2 を利用して当該テーブル M 2 T の天板面 f 上に同様に設置することもできる。

40

【0055】

（2）フェルトパネル暖簾型（図 4 1 ～図 4 4）

オプション部材であるフェルトパネル 5 は、前述したテーブル S 2 T、M 2 T の天板 1、1 0 1 上で使用されるパネルであって単一素材で作られ、他の領域よりも変形し易い変形容易領域 5 1 を部分的に備えている。このフェルトパネル 5 は、変形容易領域 5 1 を含め全体が一定の厚み寸法を有するものであって、変形容易領域 5 1 には、複数本の切込線 5 2 が同じ方向を向けて互いに干渉しないように設けられている。具体的には、このフェルトパネル 5 は、一定厚さを有するフェルト素材により作られており、変形させない初期姿勢（図 4 1、図 4 3 及び図 4 4 の実線）では、略長形状をなしている。そして、変形容

50

易領域 5 1 に設けられている切込線 5 2 は、一方のパネル面 5 a から他方のパネル面 5 b に貫通するように形成されたものであり、各切込線 5 2 は水平方向に延びている。

【 0 0 5 6 】

詳述すれば、このフェルトパネル 5 は、下縁部 5 e に、素材を分断する分断線 5 4 を左右方向に間隔をあけて複数本（ 2 本 ）設けてこれら分断線 5 4 間に下縁 5 5 a が開放された暖簾部 5 5 を形成したものであって、変形容易領域 5 1 が、暖簾部 5 5 を厚み方向に変形させうるように設けられている。図示例では暖簾部 5 5 の全体に変形容易領域 5 1 を設けているが、暖簾部 5 5 の上部にだけ変形容易領域を設けてもよい。

【 0 0 5 7 】

このフェルトパネル 5 は、暖簾部 5 5 の両側に位置する端部区域 5 6 の下端近傍部に、円柱状のフェルト素材を貫設することによって、係止凸部 5 7 が形成されており、端部区域 5 6 の下端部 5 6 a（係止凸部 5 7 の下向面 s 5 より下方に位置する突部 t 5）をテーブル S 2 T のいずれかの溝 m に嵌入させ係止凸部 5 7 の下向面 s 5 を天板面 f に係止させることによって、当該フェルトパネル 5 を天板面 f 上に起立状態で設置することができる。

10

【 0 0 5 8 】

フェルトパネル 5 の厚み寸法 5 c は、テーブル S 2 T の溝 m の標準溝幅 n と同じか若干大きく設定してあるため、係止凸部 5 7 の下向面 s 5 よりも下方に突出する突部 t 5 を構成する端部区域 5 6 の下端部 5 6 a は、所望の溝 m（有底溝 1 1、1 2、1 1 1、1 1 2、貫通溝 1 0、1 1 0）に嵌合又は圧入することができ、補助器具を一切用いることなく天板面 f 上にがたつきなく設置することができる。

20

【 0 0 5 9 】

しかして、この実施形態の突部 t 5 も、溝 m の幅寸法（標準溝幅 n）に対応する幅寸法 w 5 を有した板状のものである。

【 0 0 6 0 】

なお、この実施形態の場合は、暖簾部 5 5 の下端も端部領域 5 6 の下端と同じ高さ位置に設定してあるため、端部領域 5 6 の下端部 5 6 a だけでなく暖簾部 5 5 の下端部をも溝 m に係合させて使用することもできる。

【 0 0 6 1 】

図 4 1 は、このフェルトパネル 5 を、集成材天板 2 枚タイプのテーブル S 2 T に装着して使用する例を示している。この場合、暖簾部 5 5 が開口部 p（部分貫通溝 1 3 の拡大溝幅部 1 3 b）に対応するようにして端部区域 5 6 の下端部 5 6 a（突部 t 5）を溝 m（部分貫通溝 1 3 の標準溝幅部 1 3 a と有底溝 1 1）に係合させている。この使用態様によれば、図 4 2 に示すように暖簾部 5 5 を厚み方向に変形させることができるため、蓋体 1 4 を開成させて開口部 p を開放した状態で床下からの配線類等を円滑に天板面 f 上に導くことが可能となる。

30

【 0 0 6 2 】

このフェルトパネル 5 をテーブル M 2 T の天板面 f 上で使用する場合には、暖簾部 5 5 を貫通孔 1 1 0 の拡大溝幅部 1 1 0 b に対応させて設置するのが望ましい。

【 0 0 6 3 】

ここで、図 4 3 は、このフェルトパネル 5 の正面図であり、図 4 4 は、同フェルトパネル 5 の拡大した部分側面図である。この図 4 4 には、暖簾部 5 5 を厚み方向に変形させた状態を想像線で示している。

40

【 0 0 6 4 】

（ 3 ）アクリルパネル（図 4 5 ～図 4 8）

オプション部材であるアクリルパネル 6 は、上面 1 c、1 0 1 c に溝 m（貫通溝 1 0、1 1 0、有底溝 1 1、1 2、1 1 1、1 1 2）を有する天板 1、1 0 1 上で使用されるものであって、天板 1、1 0 1 の上面 1 c、1 0 1 c、すなわち天板面 f に当接する下向面 s 6 を有するとともに、その下向面 s 6 よりも下方に突出する突部 t 6 を備えてなり、突部 t 6 を溝 m に係合し得るように構成されている。突部 t 6 は、弾性変形可能な厚板状又はブロック状のものであり、突部 t 6 を溝 m に弾性係合させ得るように構成されている。

50

【 0 0 6 5 】

溝 m は、前述した貫通溝 1 0、1 1 0 であっても有底溝 1 1、1 2、1 1 1、1 1 2 でもよく、突部 t 6 は貫通溝 1 0、1 1 0 及び有底溝 1 1、1 2、1 1 1、1 1 2 の標準溝幅 n よりも若干大きな幅寸法 w 6 を備えている。突部 t 6 の幅寸法 w 6 は、溝 m の標準溝幅 n と同じでもよいが、若干大きく設定することによって当該突部 t 6 を対応する溝 m にがたつきなく弾性係合させることができる。

【 0 0 6 6 】

詳述すれば、このアクリルパネル 6 は、アクリル製のパネル本体 6 1 と、このパネル本体 6 1 の両側端近傍における下端部に嵌着したフェルト製の脚 6 2 とを備えたもので、両脚 6 2 の下面側に、天板面 f に当接する下向面 s 6 と、この下向面 s 6 よりも下方に突出する前述の突部 t 6 とを備えている。パネル本体 6 1 は、透明であっても半透明であってもよい。具体的には、図 4 8 に示すように、パネル本体 6 1 の下端側に脚 6 2 の厚みに対応する幅寸法の取付スリット 6 1 a を下方に開口させて形成するとともに、脚 6 2 にパネル本体 6 1 の厚みに対応する幅寸法の取付スリット 6 2 a を形成しておき、これらの取付スリット 6 1 a、6 2 a を噛み合わせることで各脚 6 2 がパネル本体 6 1 にそれぞれ取り付けられている。

10

【 0 0 6 7 】

図 4 5 は、このアクリルパネル 6 を、テーブル S 2 T の奥行方向中央に位置する貫通溝 1 0 に装着してデスクトップパネル的に使用した例であるが、このアクリルパネル 6 は、他の溝 m を利用して天板面 f の適宜な位置に立設することができる。

20

【 0 0 6 8 】

ここで、図 4 6 は、このアクリルパネル 6 の正面図であり、図 4 7 は、同アクリルパネル 6 の拡大した部分側面図である。図 4 8 は、このアクリルパネル 6 の分解斜視図である。

【 0 0 6 9 】

(4) 書見台 (図 4 9 ~ 図 5 2)

オプション部材である書見台 7 は、複数の溝 m (貫通溝 1 0、1 1 0、有底溝 1 1、1 2、1 1 1、1 1 2) を有する天板 1、1 0 1 の天板面 f 上で使用されるものであって、天板 1、1 0 1 の上面 1 c、1 0 1 c、すなわち天板面 f に当接する下向面 s 7 を有するとともに、その下向面 s 7 よりも下方に突出する突部 t 7 を備えてなり、突部 t 7 を溝 m に係合し得るように構成されている。

30

【 0 0 7 0 】

詳述すれば、書見台 7 は、天板面 f 上に載置される基板 7 1 と、この基板 7 1 の前縁から後傾姿勢で起立する起立板 7 2 とを備えたものであり、基板 7 1 の下面側に天板面 f に当接する下向面 s 7 が形成されているとともに、基板 7 1 の後縁に下向面 s 7 よりも下方に突出する突部 t 7 が垂設されている。突部 t 7 を含む基板 7 1 及び起立板 7 2 は、板金素材に折曲加工を施すことにより一体に作られたものである。起立板 7 2 の下端中央部には、基板 7 1 から切り起こした転倒抑制板 7 3 が一体に設けられている。

【 0 0 7 1 】

図 4 9 は、この書見台 7 (x) を、テーブル S 2 T の有底溝 1 2 を利用して天板面 f 上に位置決め状態で載置した状態を示している。すなわち、書見台 7 (x) の突部 t 7 は有底溝 1 2 に挿入されており、書見台 7 (x) は前後方向に位置決めされた状態となっているが、有底溝 1 2 に沿って左右方向に移動させることが自在である。この書見台 7 (x) は板金製のものであるため、磁石等を用いて起立板 7 2 の前面に書類等を自在に保持させることができる。

40

【 0 0 7 2 】

図 4 9 は、この書見台 7 (y) を初期の目的とは異なり、パーソナルコンピュータ等の機器類を載置するチルト台として使用する場合をも示している。チルト台として使用する場合で設置した書見台 7 (y) は、基板 7 1 の突部 t 7 の突出幅寸法 g 7 が、有底溝 1 2 の標準溝幅 n 以下に設定されており、起立板 7 2 の自由端 7 2 a 側を天板 1 の使用端 1 a 側に位置させてその突部 t 7 を基板 7 1 とともに有底溝 1 2 に挿入することができる。その

50

結果、起立板 7 2 を寝かせた状態で天板面 f 上に載置することができ、起立板 7 2 が使用者に対して前傾姿勢となる。そのため、この起立板 7 2 上にパーソナルコンピュータ等を前傾姿勢で支持させることが可能となる。このようにして書見台 7 を、パーソナルコンピュータ等のためのチルト台として使用することもできる。

【 0 0 7 3 】

ここで、図 5 0 は、この書見台 7 の正面図であり、図 5 1 は同側面図であり、図 5 2 は同底面図である。

【 0 0 7 4 】

(5) 植栽ボックス (図 5 3 ~ 5 5)

オプション部材である植栽ボックス 8 は、複数本の溝 m (貫通溝 1 0、1 1 0、有底溝 1 1、1 2、1 1 1、1 1 2) を有する天板面 f 上で使用されるものであって、天板 1、1 0 1 の上面 1 c、1 0 1 c すなわち天板面 f に当接する下向面 s 8 を有するとともに、その下向面 s 8 よりも下方に突出する複数の突部 t 8 を備えてなる。そして、突部 t 8 同士の相対位置が、各突部 t 8 を 1 本の溝 m にそれぞれ係合させる第 1 設置態様 (L 1) と、各突部を異なった溝に係合させる第 2 設置態様 (L 2) とを選択的にとり得るように設定されている。

【 0 0 7 5 】

詳述すれば、この植栽ボックス 8 は、開口窓 8 1 a を有する頂板 8 1 と、この頂板 8 1 の両端から下面側に延出させた端板 8 2 と、これら端板 8 2 間に架設されこれら端板 8 2 及び頂板 8 1 と協働して箱形構造物を形成するチャンネル部材 8 3 とを備えたものである。頂板 8 1 と両端板 8 2 とは、板金素材に折曲加工を施すことによって一体に構成されており、板金製のチャンネル部材 8 3 はこれら頂板 8 1 及び端板 8 2 に溶接等により止着されている。

【 0 0 7 6 】

両端板 8 2 の下端部には、内方に屈曲する屈曲部 8 2 a と、屈曲せずに下方に垂下する突部 t 8 とが形成されており、屈曲部 8 2 a が天板面 f に当接する下向面 s 8 を備えている。突部 t 8 は、この下向面 s 8 よりも下方に突出している。各突部 t 8 の幅寸法 w 8 はテーブル S 2 T、M 2 T の溝 m の幅 (貫通溝及び有底溝の標準溝幅 n) と同じ又はそれ未満に設定されており、前述の第 1 設置態様 (L 1) を採り得るようにしている。また、両突部 t 2 の離間距離は、テーブル S 2 T、M 2 T の特定の溝 m 同士の離間距離に対応させて設定することによって、前述の第 2 設置態様 (L 2) をもとり得るようにしている。この実施形態では、テーブル S 2 T、M 2 T の中央の溝 m (貫通溝 1 0、1 1 0) と使用端 1 a、1 0 1 a との離間距離 d 1 と、第 2 の有底溝 1 2、1 1 2 同士の離間距離 d 2 とを等しく設定している。この植栽ボックス 8 は、自然の植物や人工の植物を飾るための受け皿として用いることができるだけでなく、共有物等を収納しておくための収納容器としても利用することができる。

【 0 0 7 7 】

図 5 3 は、植栽ボックス 8 (x) を第 1 設置態様 (L 1) でテーブル S 2 T、M 2 T の天板面 f 上に載置した状態の一例を示している。この状態では、1 本の溝 m (貫通溝又は有底溝) に両突部 t 8 を挿入して位置決めした状態で、下向面 s 8 を天板面 f に当接支持させている。

【 0 0 7 8 】

図 5 3 には、植栽ボックス 8 (y) を第 2 設置態様 (L 2) でテーブル S 2 T、M 2 T の天板面 f 上に載置した状態の一例をも示している。この態様では、植栽ボックス 8 (y) の一方の突部 t 8 をテーブル S 2 T、M 2 T の溝 m (貫通溝 1 0、1 1 0) に係合させるとともに、他方の突部 t 8 をテーブル S 2 T、M 2 T の使用端 1 a、1 0 1 a に係合させて位置決めを行っている。

【 0 0 7 9 】

図 5 3 には、植栽ボックス 8 (z) を第 2 設置態様 (L 2) でテーブル S 2 T、M 2 T の天板面 f 上に載置した状態の他の例をも示している。この態様では、植栽ボックス 8 (z

）の一方の突部 t 8 をテーブル S 2 T、M 2 T の一方の天板の溝 m（有底溝 1 2）に係合させるとともに、他方の突部 t 8 をテーブルの他方の天板の溝 m（有底溝 1 2）に係合させて位置決めを行っている。

【 0 0 8 0 】

ここで、図 5 4 はこの植栽ボックス 8 の正面図であり、図 5 5 は同拡大側面図である。

【 0 0 8 1 】

（ 6 ）シェルフ（図 5 6 ～図 5 8）

オプション部材であるシェルフ 9 は、複数本の溝 m（貫通溝 1 0、1 1 0、有底溝 1 1、1 2、1 1 1、1 1 2）を有する天板 1、1 0 1 の天板面 f 上で使用されるものであって、天板 1、1 0 1 の上面 1 c、1 0 1 c に当接する下向面 s 9 を有するとともに、その下向面 s 9 よりも下方に突出する複数の突部 t 9 を備えてなる。そして、突部 t 9 同士の相対位置が、各突部 t 9 を 1 本の溝 m にそれぞれ係合させる第 1 設置態様（L 1）と、各突部 t 9 を異なった溝 m に係合させる図示しない第 2 設置態様とを選択的にとり得るように設定されている。

【 0 0 8 2 】

詳述すれば、このシェルフ 9 は、頂板 9 1 と、この頂板 9 1 の両端から下面側に延出させた端板 9 2 と、これら端板 9 2 間に架設された補強用のチャンネル部材 9 3 とを備えたものである。頂板 9 1 と両端板 9 2 とは、板金素材に折曲加工を施すことによって一体に構成されており、板金製のチャンネル部材 9 3 はこれら頂板 9 1 及び端板 9 2 に溶接等により止着されている。

【 0 0 8 3 】

両端板 9 2 の下端部には、内方に屈曲する屈曲部 9 2 a と、屈曲せずに下方に垂下する突部 t 9 とが形成されており、屈曲部 9 2 a が天板面 f に当接する下向面 s 9 を備えている。突部 t 9 は、この下向面 s 9 よりも下方に突出している。

【 0 0 8 4 】

かかるシェルフ 9 は、デスク S 2 T、M 2 T の天板面 f をより効率的に使用するためのものであり、前述した植栽ボックス 8 と同様な態様で天板面 f 上に配置することができる。さらに、このシェルフ 9 は、図 5 6 に示すように、開口部 p の上に配置することもできる。

【 0 0 8 5 】

ここで、図 5 7 はこのシェルフ 9 の正面図であり、図 5 8 は同拡大側面図である。

【 0 0 8 6 】

< 本実施形態に係るテーブル及びオプション部材の作用効果 >

このような構成のテーブル S 2 T、M 2 T であれば、天板面 f に複数本の溝 m（貫通溝 1 0、1 1 0 と有底溝 1 1、1 2、1 1 1、1 1 2）が平行に表出することになり、それらの溝 m を適宜使用して前述したオプション部材 4 ～ 9 等を何らの器具を用いることなく位置決めしたり保持したりすることができる。そのため、シンプルな構成であるにも拘わらず、多様なオプション配置を行うことができ、使い勝手が良好なものとなる。

【 0 0 8 7 】

また、天板 1、1 0 1 間に形成される貫通溝 1 0、1 1 0 は、天板 1、1 0 1 の下面 1 d、1 0 1 d 側と上面 1 c、1 0 1 c 側と連通させる配線挿通口としての役割を果たすだけでなく、床面に立設したデスクトップパネル支持用の支柱等を通過させる隙間として利用することもできる。特に、貫通溝 1 0、1 1 0 は、天板 1、1 0 1 の左右方向一端から他端まで連続して形成されたものであるため、利用する箇所を自在に選ぶことができ、使い勝手が良い。

【 0 0 8 8 】

さらに、有底溝 1 1、1 2、1 1 1、1 1 2 は、前述したようなオプション部材 4 ～ 9 の保持や位置決めに限らず、例えば、スマートフォン S P や図示しないタブレット端末等を立てかけるために使用することもできる。特に、この実施形態では、各天板 1、1 0 1 に複数本の有底溝 1 1、1 2、1 1 1、1 1 2 が平行に設けてあるため、使用箇所を左右方向

のみならず奥行方向にも変更することができ、多様な使い方ができる。

【0089】

貫通溝10、110は、集成材天板2枚タイプのテーブルS2Tのように全体が一定の標準溝幅nを有したものであってもよいが、メラミン天板2枚タイプのテーブルM2Tのように一部が標準溝幅nを有したものであってもよい。しかして、メラミン天板2枚タイプのテーブルM2Tにおける貫通溝110は、標準溝幅nを有する標準溝幅部110aと、この標準溝幅部110aよりも幅の広い拡大溝幅部110bとを有するものであり、拡大溝幅部110bの存在により天板101の上下面を連通させる開口部pが形成されている。そのため、開口部pを利用して配線のみならず、比較的嵩高いコンセントやコネクタ、あるいは床面に立設した支柱等を挿通させることも可能となる。

10

【0090】

また、貫通溝10、110の標準溝幅nと有底溝11、12、111、112の標準溝幅nを統一しているので、見栄えが良好なものになるだけでなく、種々のオプション類4~9を保持させたり位置決めする場合に、貫通溝10、110と有底溝11、12、111、112とを区別することなく自在に利用できる確率が高くなり、利便性が向上する。

【0091】

さらに、集成材天板2枚タイプのテーブルS2Tのように、有底溝11の途中に、当該有底溝11と略同じ標準溝幅nを有する標準溝幅部13aと、この標準溝幅部13aよりも幅の広い拡大溝幅部13bとを有する部分貫通溝13を設けておけば、有底溝11部分においても、天板1の上下面を連通させる開口部pを形成することができる。しかも、部分貫通溝13の標準溝幅部13aを有底溝11に連続させておけば、有底溝11と部分貫通溝13との境界が見栄えの良いものになるだけでなく、この部分貫通溝13を利用して天板1を上下から挟持するクランプkを無理なく装着することが可能となる。このクランプkは、図13に示すように、部分貫通溝13の拡大溝幅部13bにより形成される開口部pから挿入され、左右方向にスライド移動させて、図14に示すように部分貫通溝13の標準溝幅部13aに装着されるものであり、図示しないディスプレイやコンセントC等の支持に用いられる。

20

【0092】

また、集成材天板2枚タイプのテーブルS2Tのように、部分貫通溝13の拡大溝幅部13bに、蓋体14を開閉可能に配しておけば、拡大溝幅部13bにより形成される開口部pを必要な時だけ開放することができる。そして、蓋体14を閉じると、拡大溝幅13b部の実質的な開口幅を標準溝幅nにまで縮小させることができるので、天板面fが整然としたものとなり、消毒等の清掃作業も円滑に行うことができる。

30

【0093】

そして、集成材天板2枚タイプのテーブルS2Tでは、有底溝11、12の左右両端が、天板1の左右両端まで達して開放されているため、有底溝11、12内に溜まった埃も容易に側方に掃き出すことができる。一方、メラミン天板2枚タイプのテーブルM2Tでは、有底溝111、112の左右両端が天板101の左右両端近傍において閉塞されているが、閉塞された有底溝111、112の両端部は、その深さ寸法が漸次小さくなって最端位置で略零になるようにしてあるため、かかる有底溝111、112内の異物も容易に排出することができる。

40

【0094】

加えて、オプション部材であるフェルトパネル4、5は、単一素材であるフェルトにより作られ、他の領域よりも変形し易い変形容易領域41、51を部分的に備えているので、格別なヒンジ要素等を設けることなく全体の形状を前述したように変化させることができる。そのため、構造の複雑化や部品点数の増加を招くことなしに、テーブルS2T、M2Tの天板面fに形成された溝mを利用して多様な姿勢で天板面f上に立設して使用することができる。

【0095】

なお、オプション部材の取付け対象となる天板は、前述したようなテーブルの天板に限ら

50

れないのは勿論であり、個人用のテーブルその他であってもよい。

【 0 0 9 6 】

また、素材はフェルトに限られず他のものであってもよいが、フェルトであれば厚み方向にも適度に弾性変形させることができるので、溝に嵌合或いは圧入して使用するのに好適なものとなる。

【 0 0 9 7 】

さらに、変形容易領域の構成も図示例に限られないが、前述のように多数の切込線を相互に干渉しないように配置したものにすれば、製造も容易である上に、見栄えも良好であり、変形させていない場合には、当該変形容易領域が目立たないものとなる。

【 0 0 9 8 】

10

その他、本発明の趣旨を損ねない範囲で種々に変形してよい。

【 符号の説明 】

【 0 0 9 9 】

1、1 0 1 ... 天板

4 ... パネル（フェルトパネル）

4 1 ... 変形容易領域

4 2 ... 切込線

4 4 ... 区域（中間区域）

4 5 ... 区域（端部区域）

4 a ... 一方のパネル面

20

4 b ... 他方のパネル面

4 c ... 厚み寸法

5 ... パネル（フェルトパネル）

5 1 ... 変形容易領域

5 2 ... 切込線

5 4 ... 分断線

5 5 ... 暖簾部

5 a ... 一方のパネル面

5 b ... 他方のパネル面

5 c ... 厚み寸法

30

5 e ... 下縁部

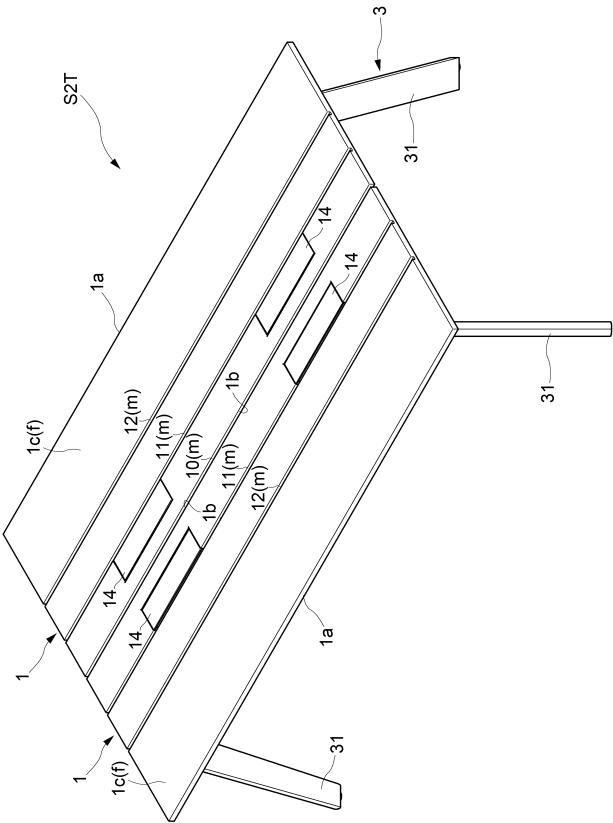
f ... 天板面

m ... 溝

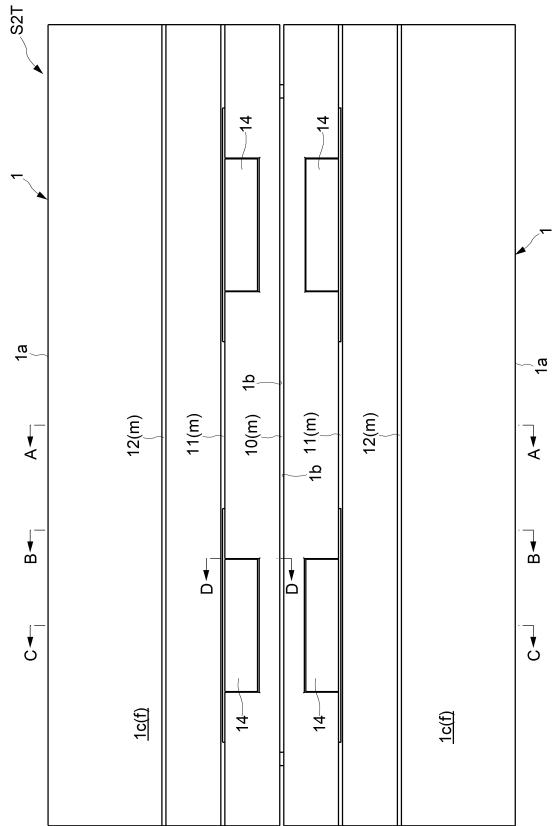
40

50

【図面】
【図 1】



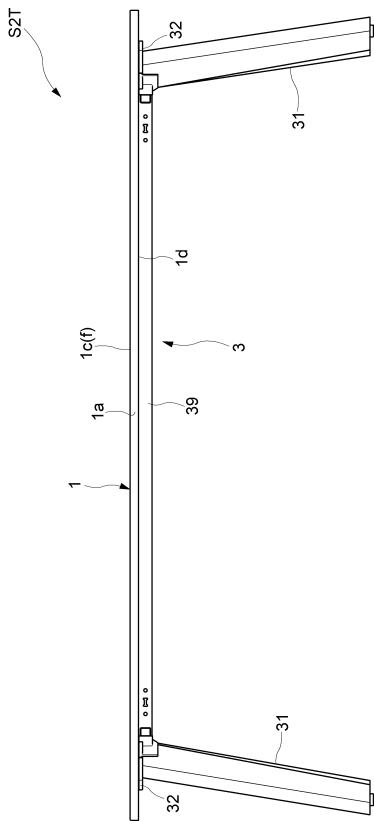
【図 2】



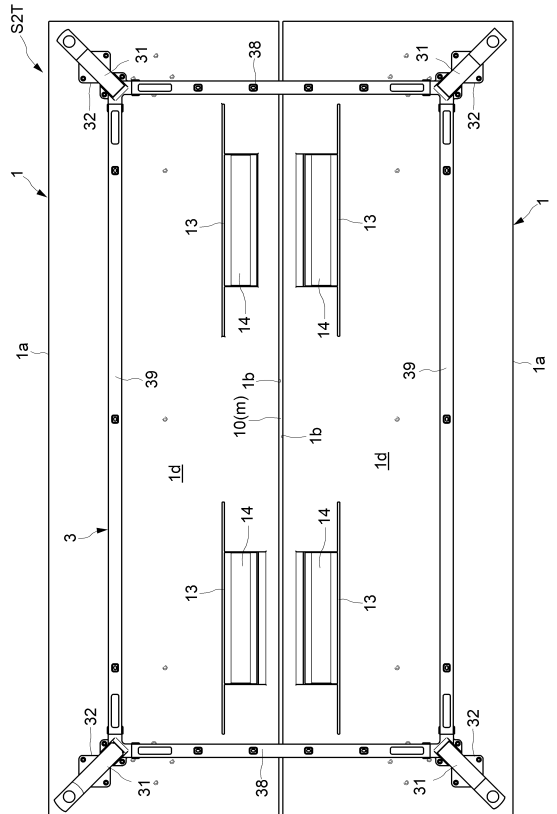
10

20

【図 3】



【図 4】

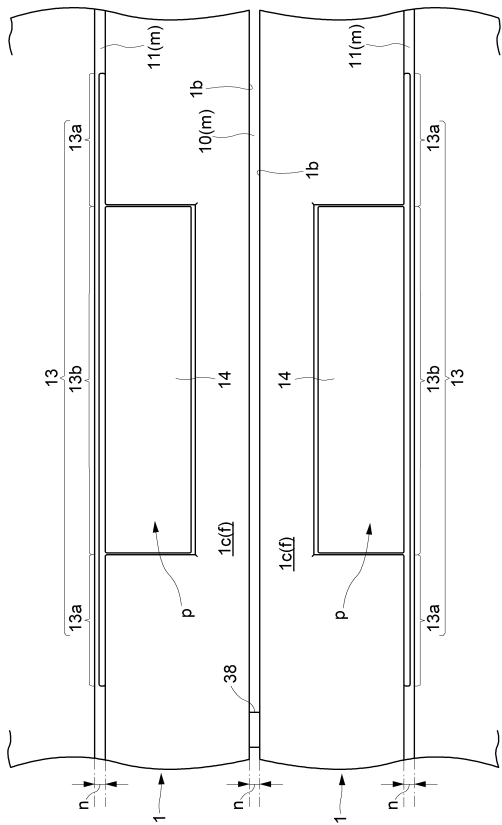


30

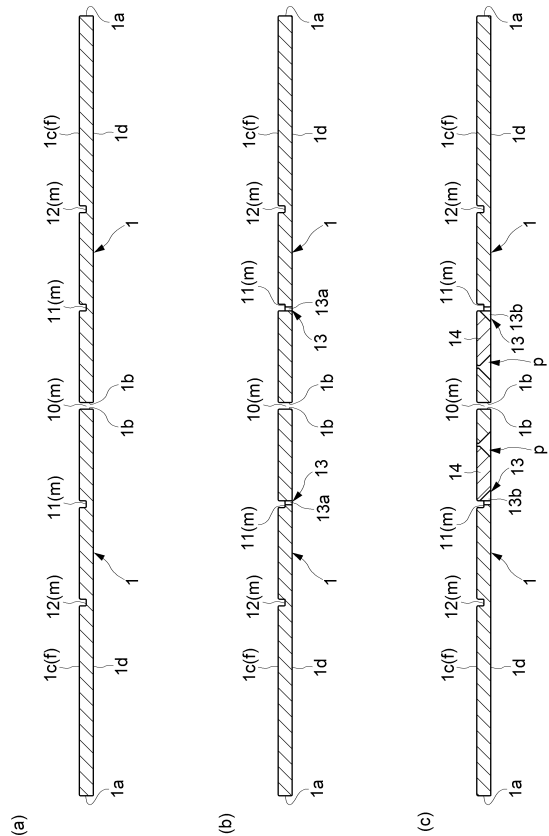
40

50

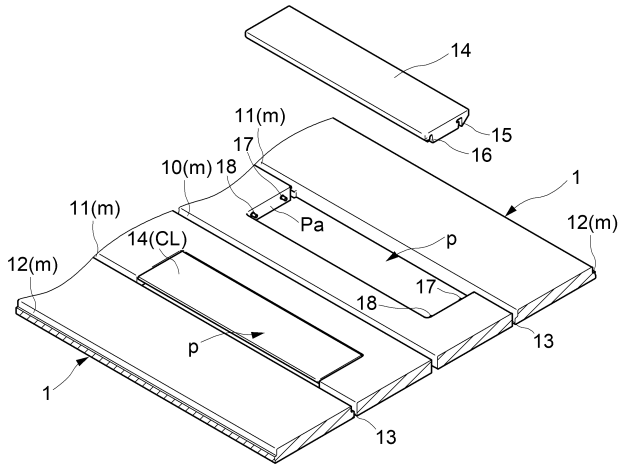
【図 5】



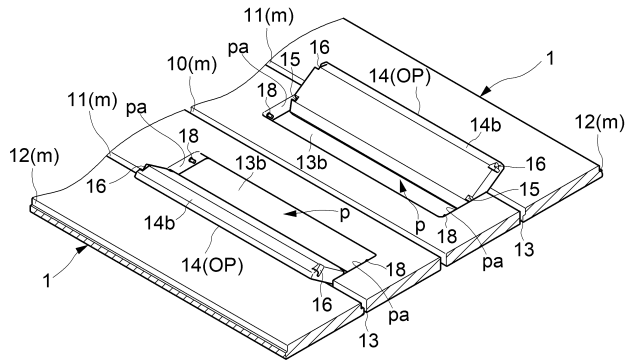
【図 6】



【図 7】



【図 8】



10

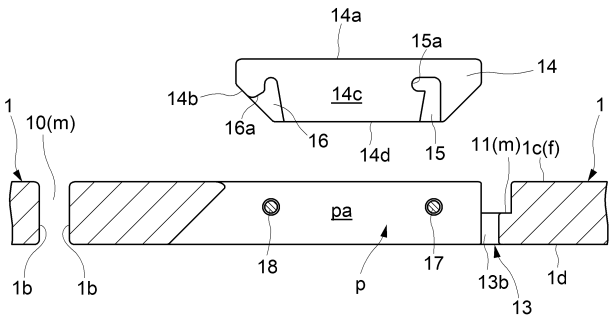
20

30

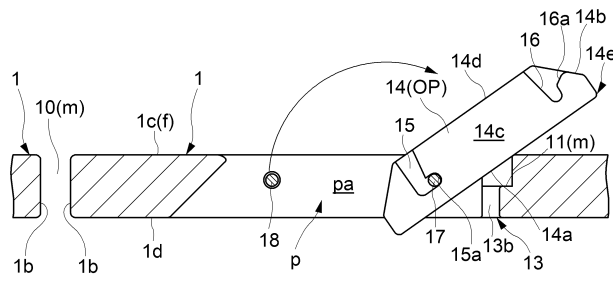
40

50

【図 9】

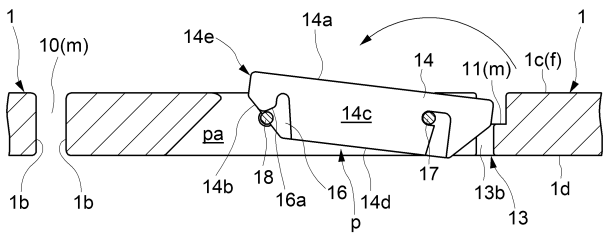


【図 10】

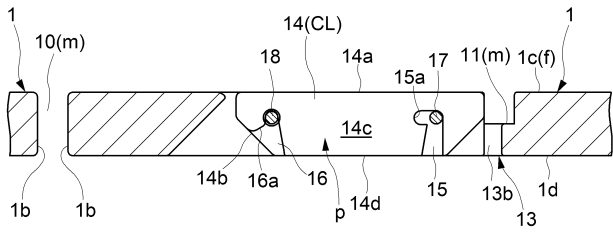


10

【図 11】

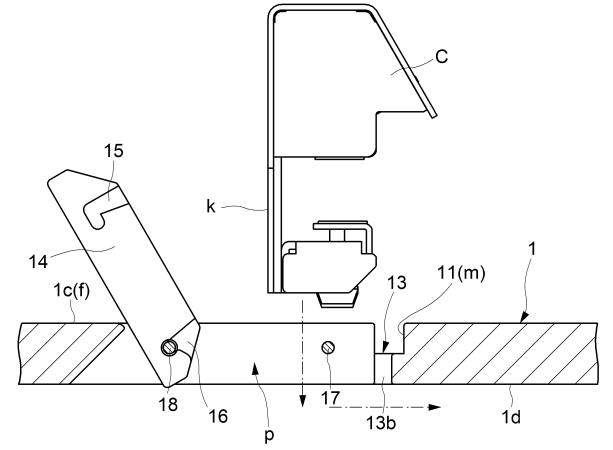


【図 12】

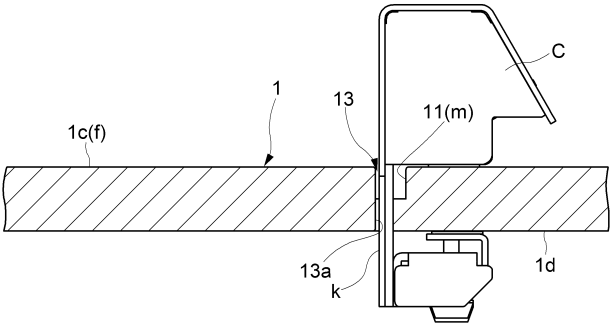


20

【図 13】



【図 14】

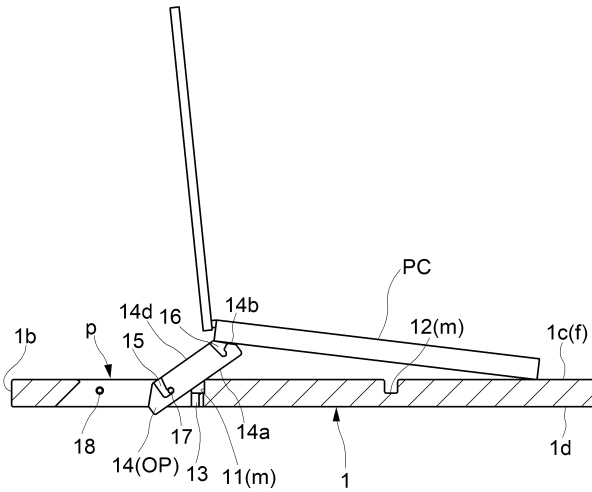


30

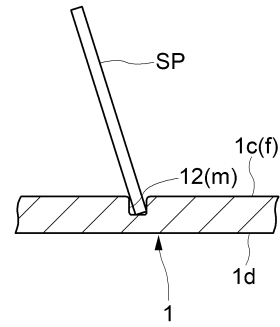
40

50

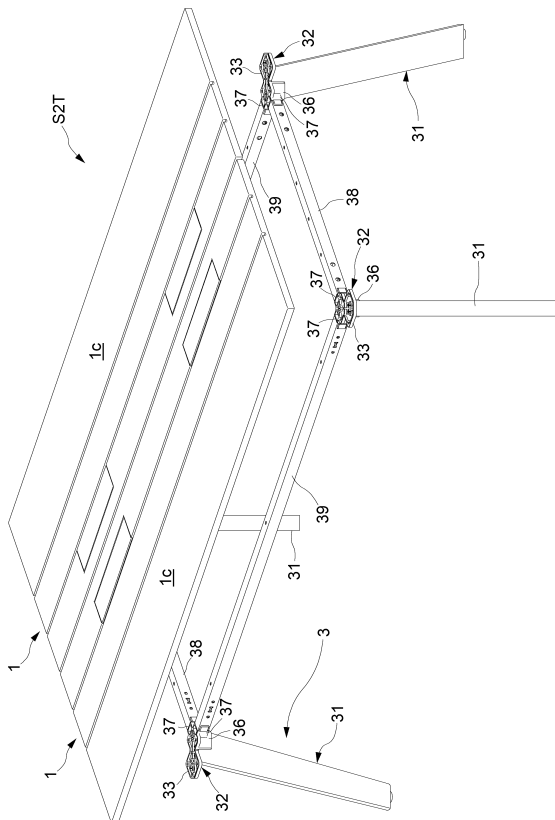
【 図 1 5 】



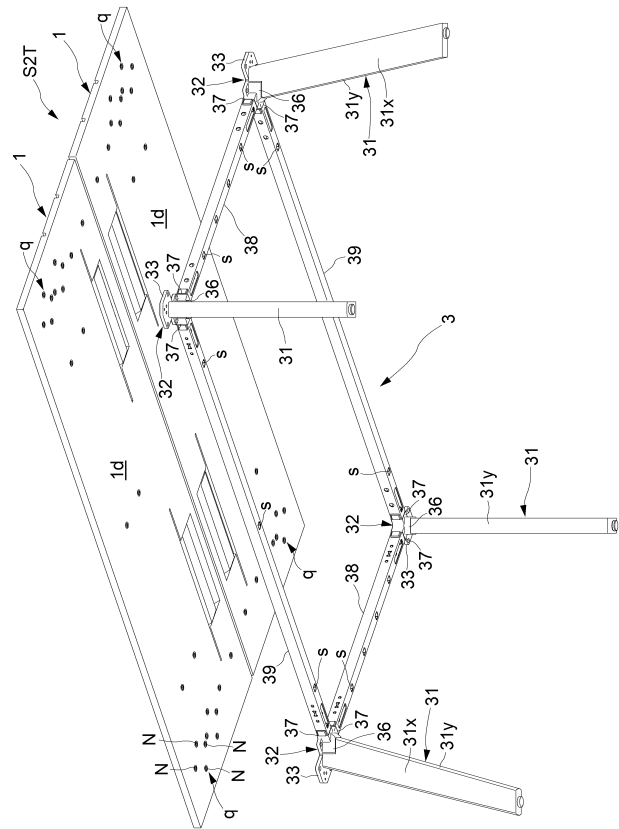
【 ㄨ 1 6 】



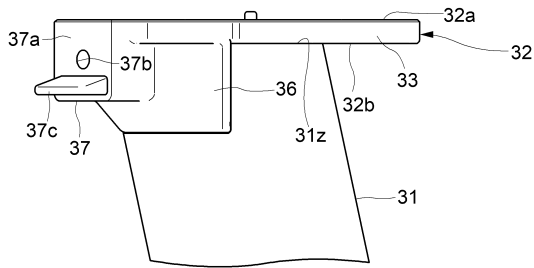
【 図 1 7 】



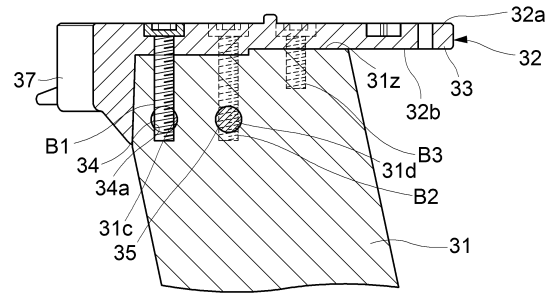
【 図 1 8 】



【 図 2 3 】

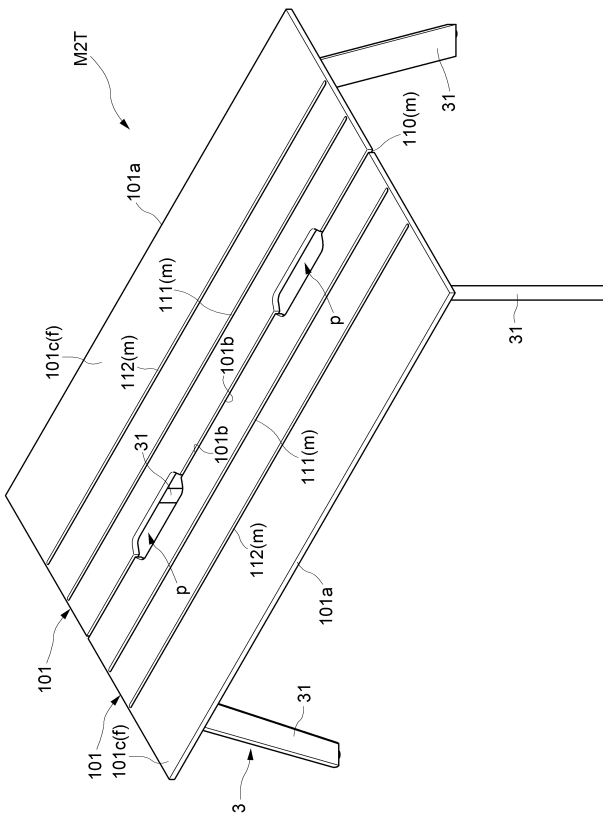


【 図 2 4 】

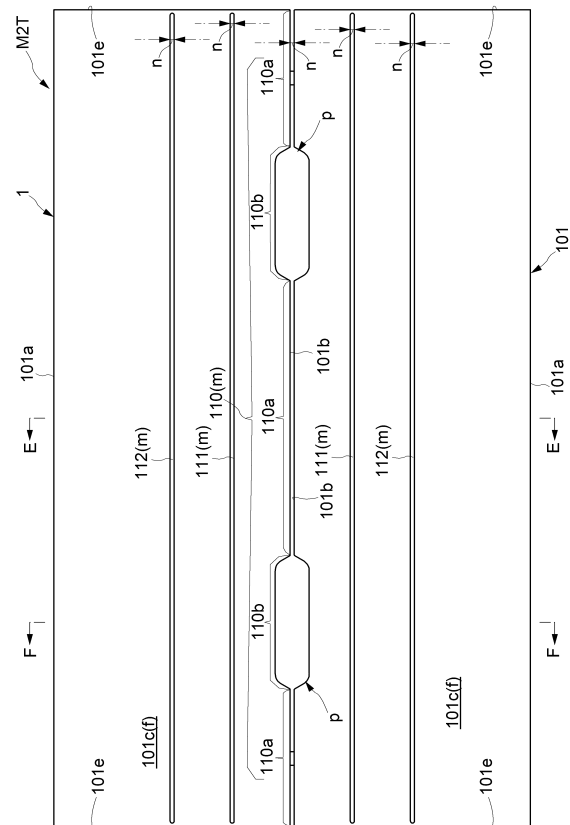


10

【 図 2 5 】



【 図 2 6 】



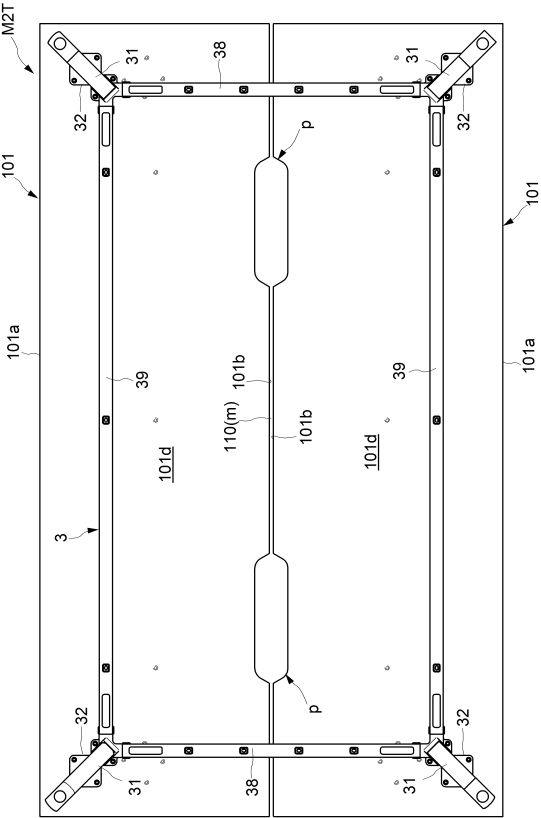
20

30

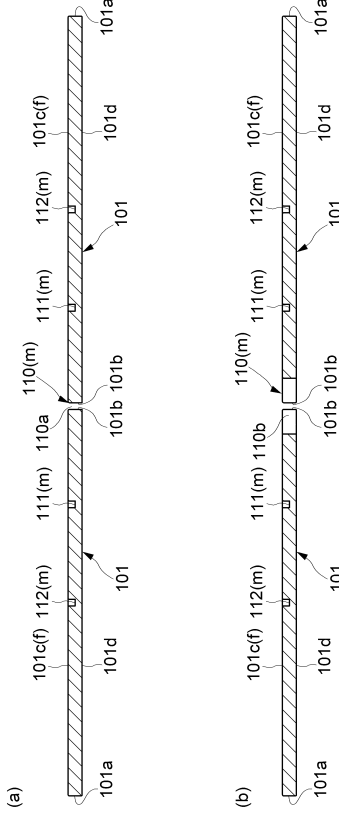
40

50

【図 2 7】



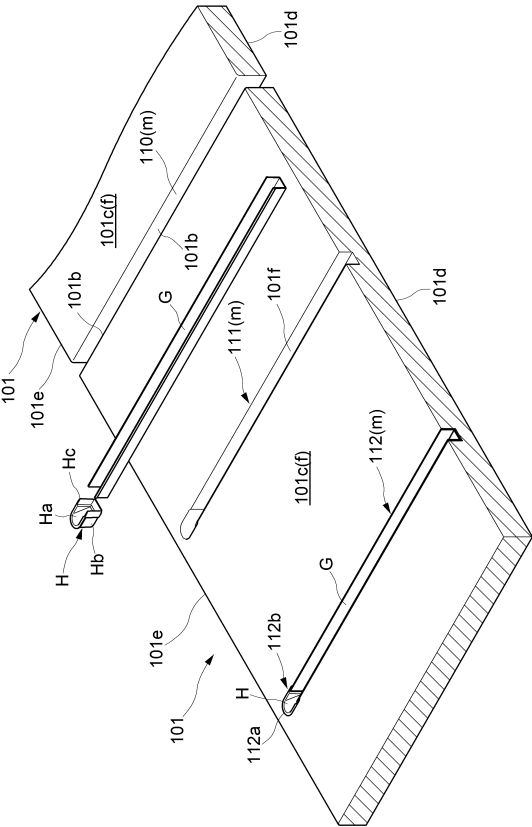
【図 2 8】



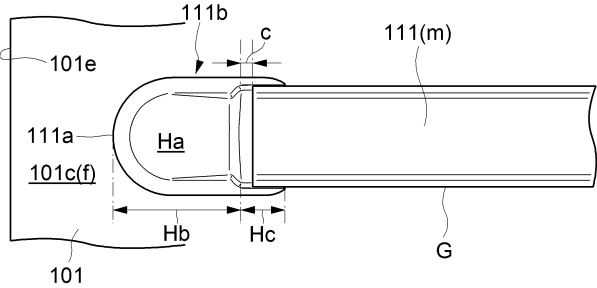
10

20

【図 2 9】



【図 3 0】

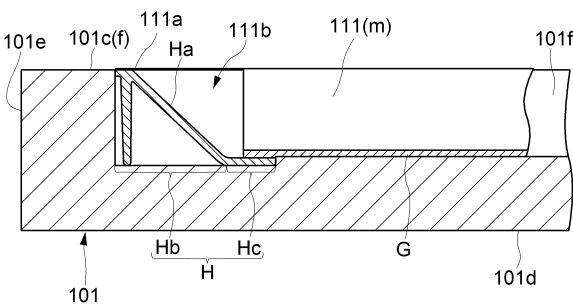


30

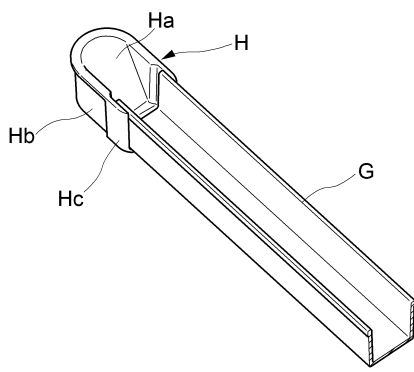
40

50

【図 3 1】

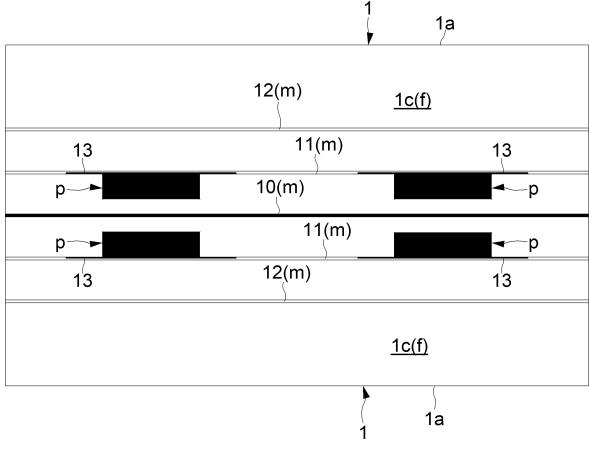


【図 3 2】

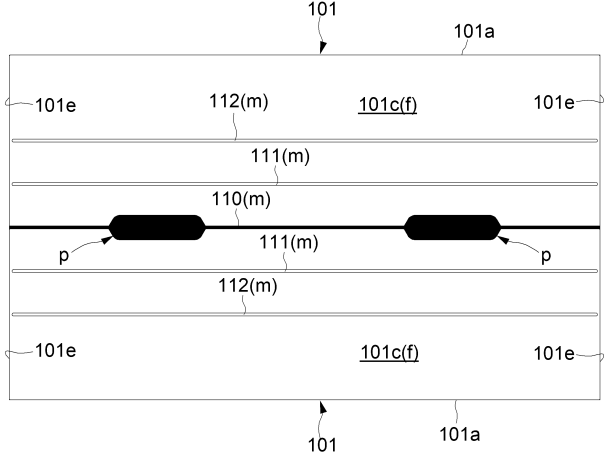


10

【図 3 3】



【図 3 4】



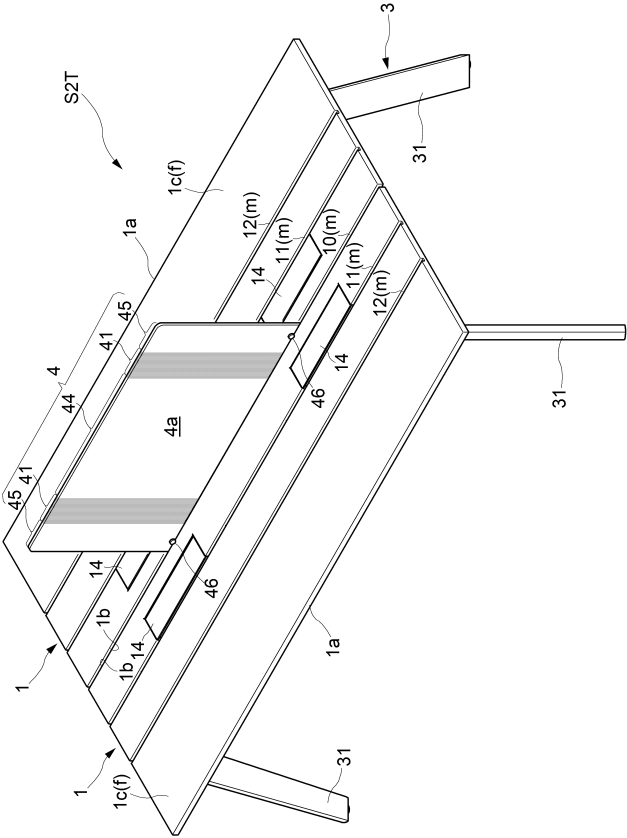
20

30

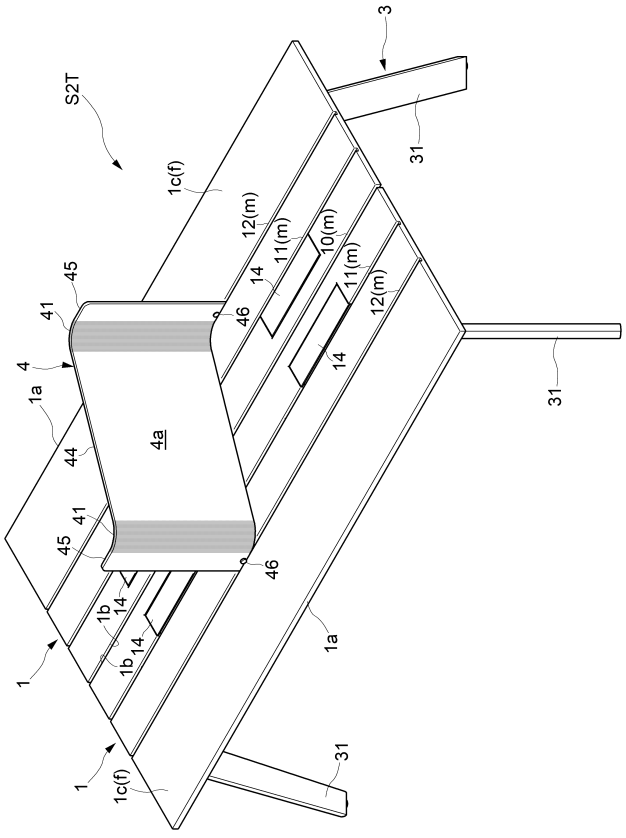
40

50

【図 3 5】



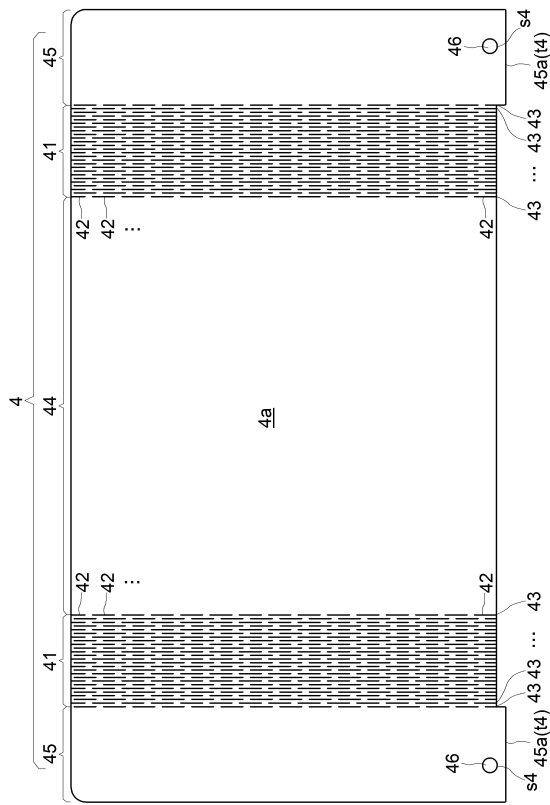
【図 3 6】



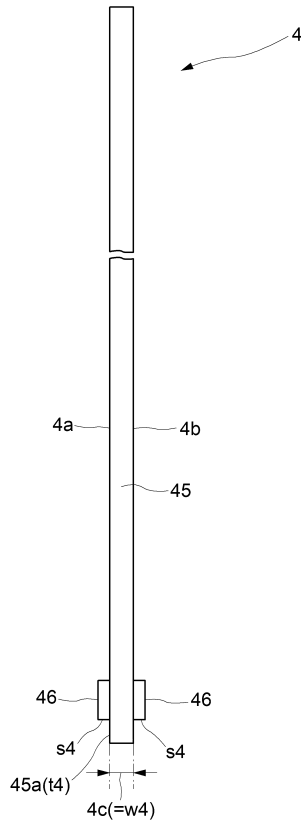
10

20

【図 3 7】



【図 3 8】

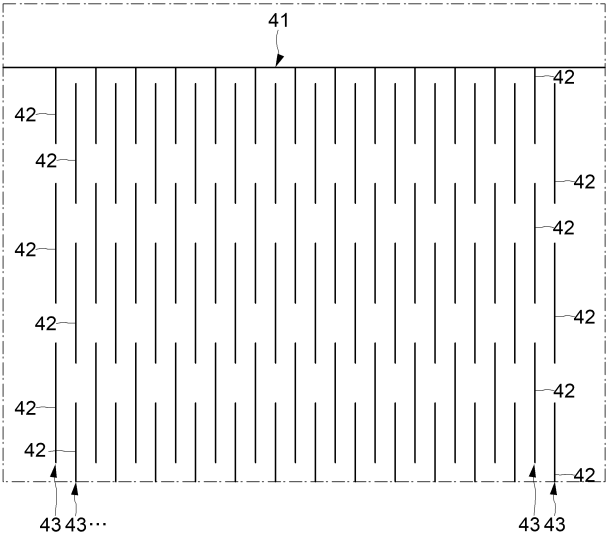


30

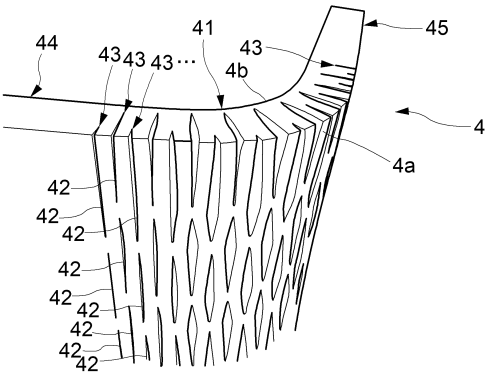
40

50

【 図 3 9 】

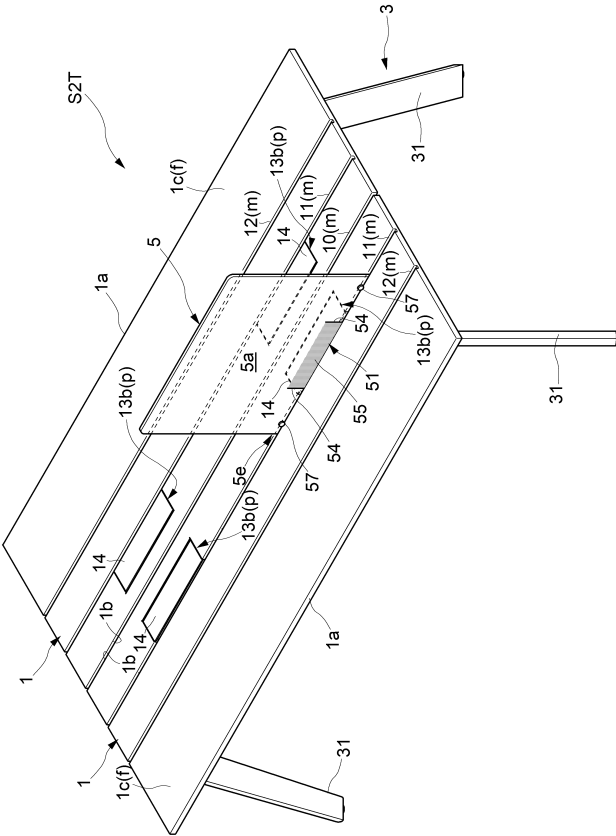


【 図 4 0 】

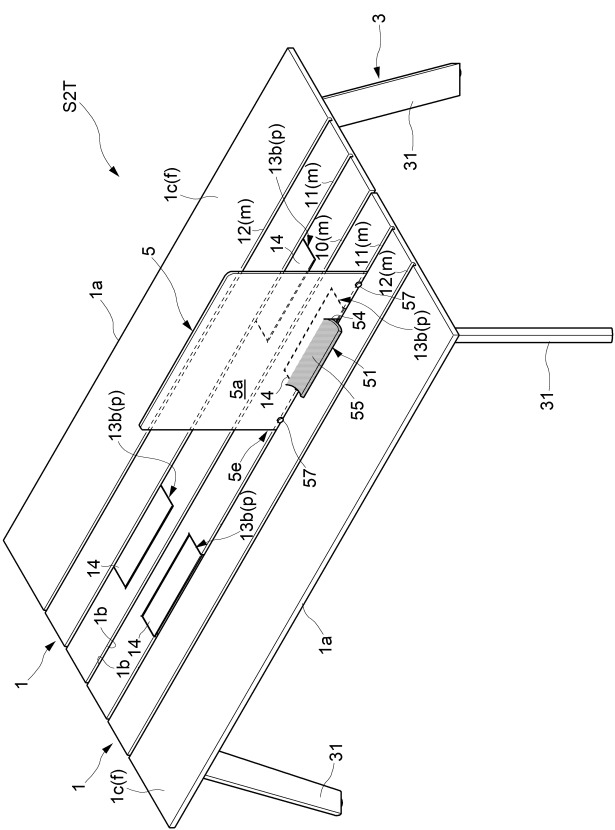


10

【 図 4 1 】



【 図 4 2 】



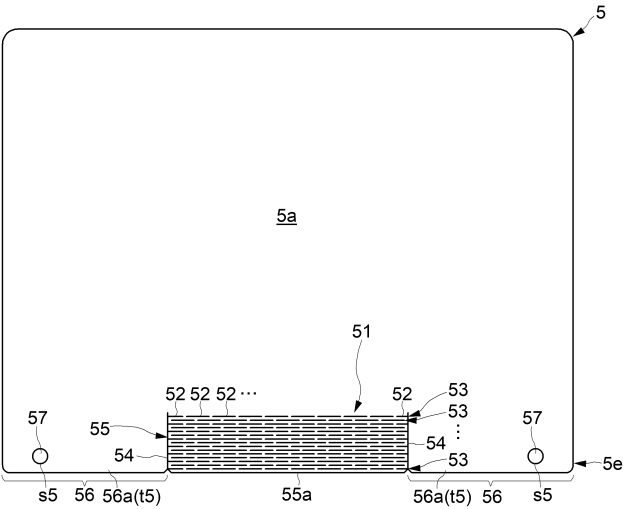
20

30

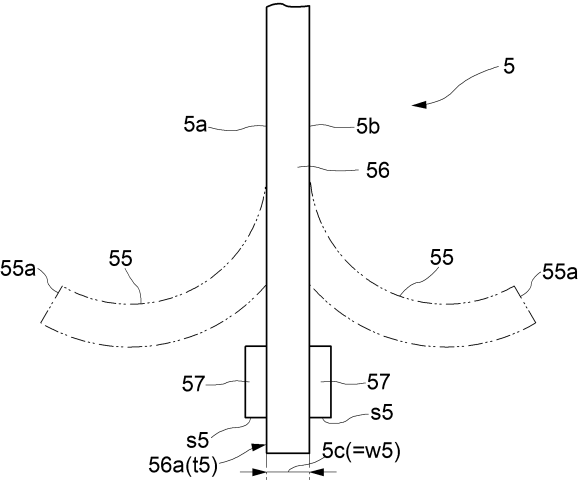
40

50

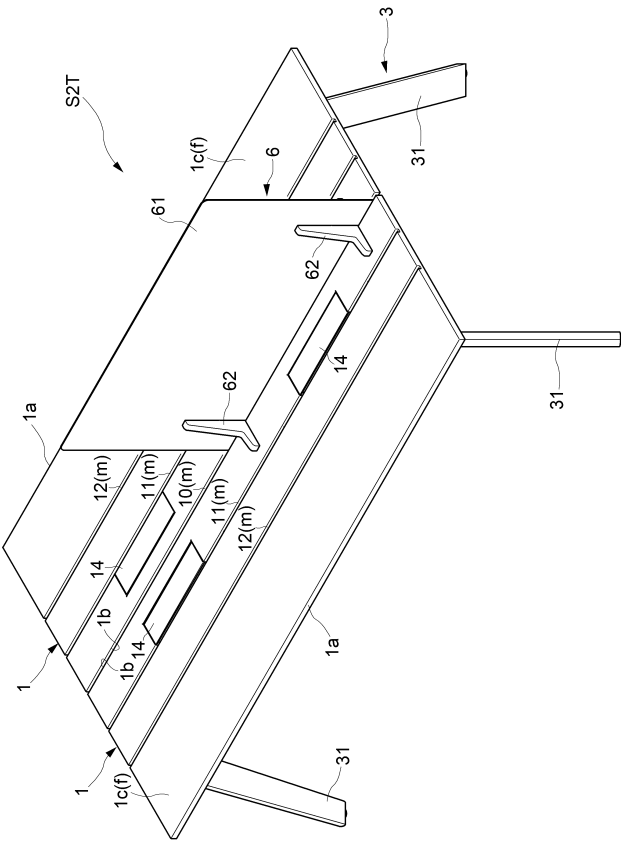
【図 4 3】



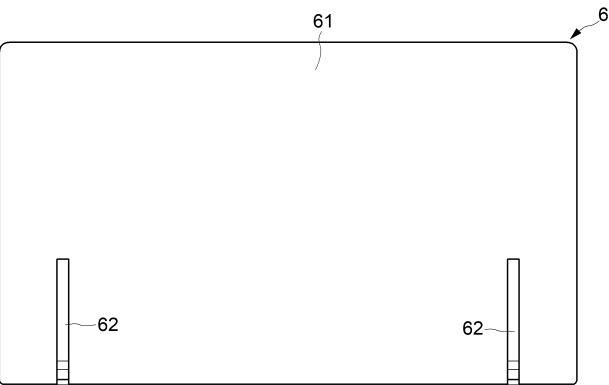
【図 4 4】



【図 4 5】



【図 4 6】



10

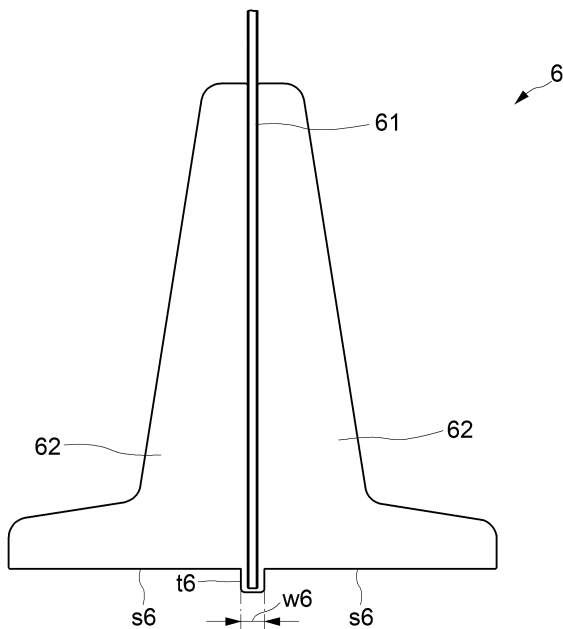
20

30

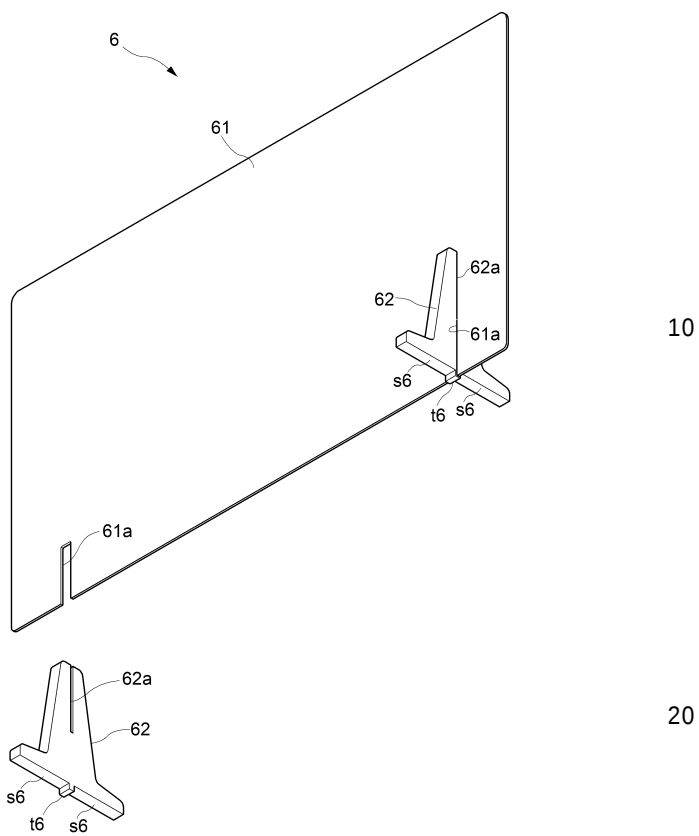
40

50

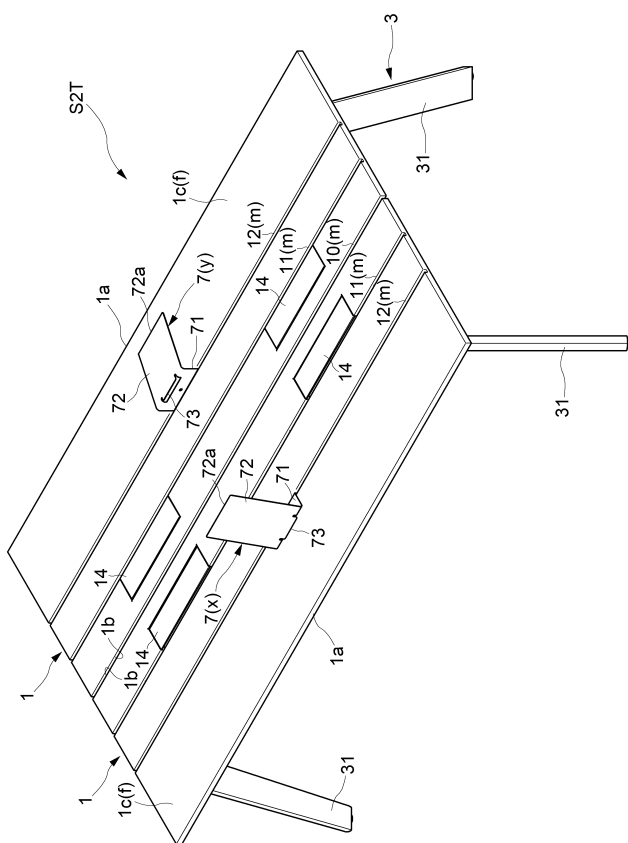
【 図 4 7 】



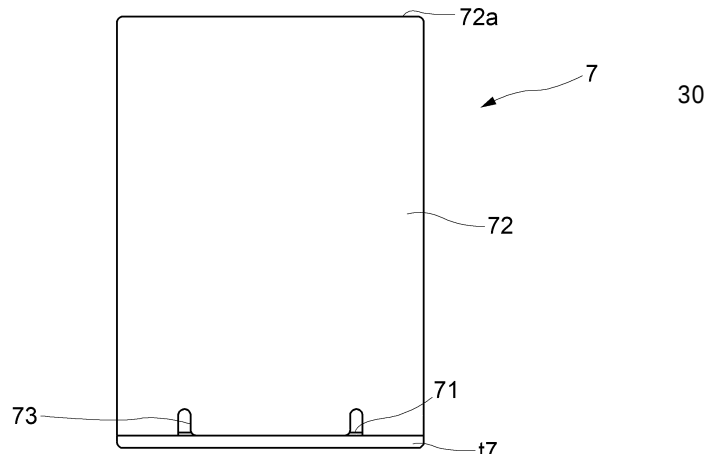
【 図 4 8 】



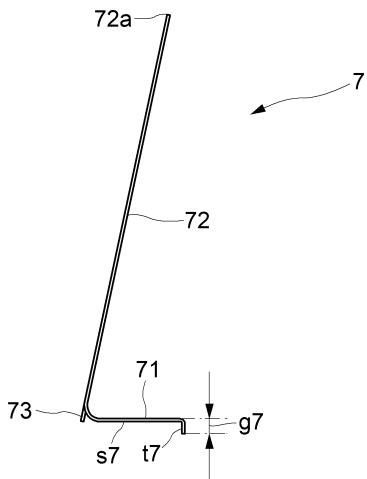
【 図 4 9 】



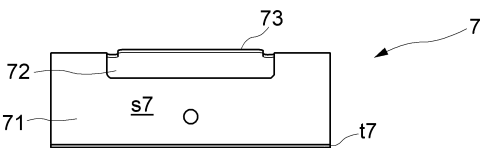
【 図 5 0 】



【図 5 1】

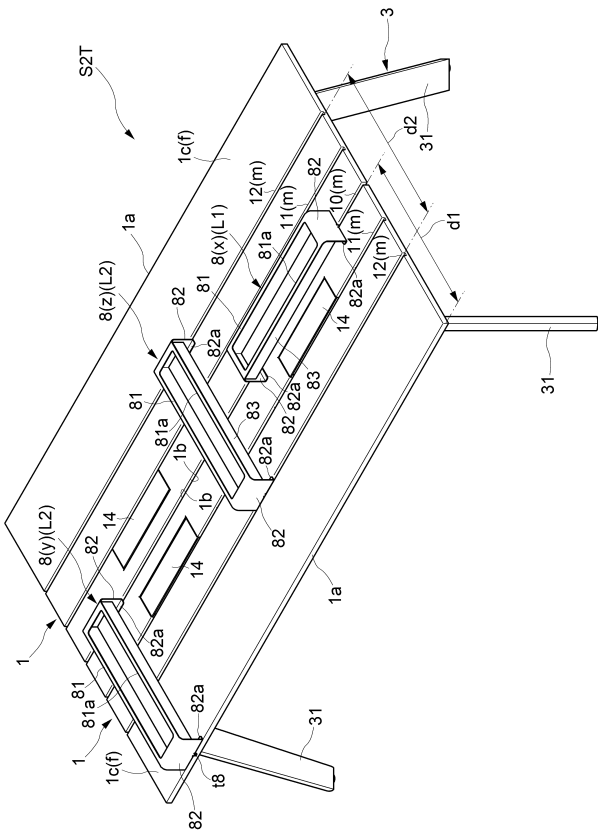


【図 5 2】

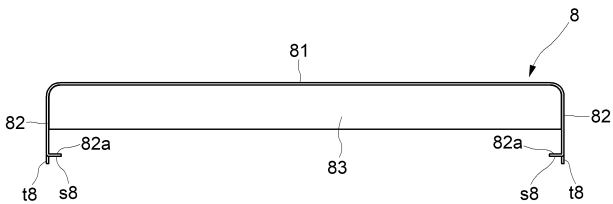


10

【図 5 3】



【図 5 4】



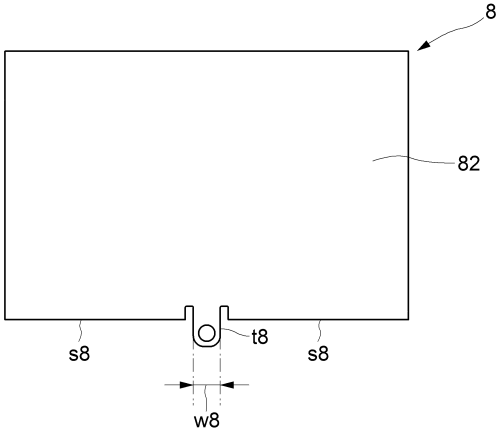
20

30

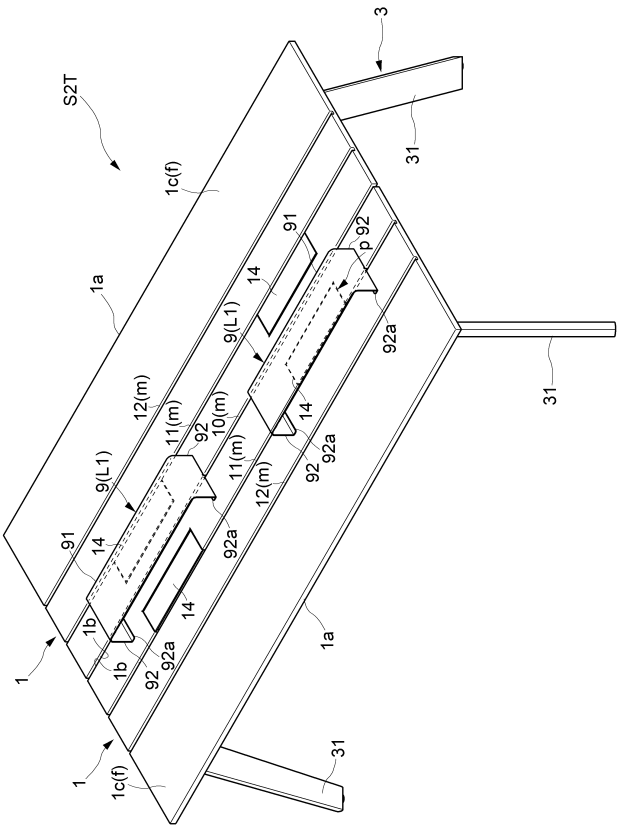
40

50

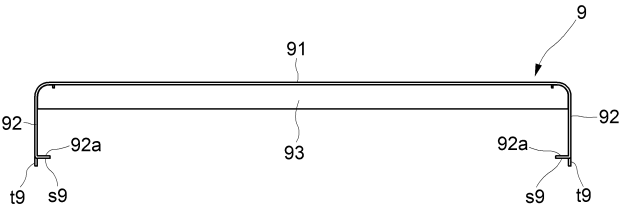
【 図 5 5 】



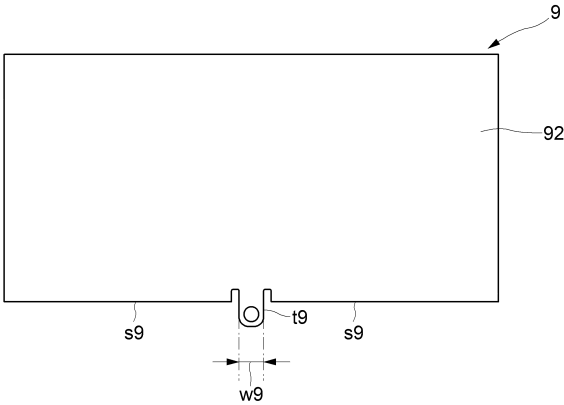
【 図 5 6 】



【 図 5 7 】



【 図 5 8 】



10

20

30

40

50